柳宗理記念デザイン研究所

活動実績

2014-2024

まえがき

柳宗理記念デザイン研究所は、日本を代表する工業デザイナー柳宗理が 1955 年、金沢美術工芸大学の産業美術学科設立当時から約 50 年にわたり本学で教鞭をとりました。その縁から 2012 年 7 月、柳宗理作品を始めとするデザイン関係資料 7000 点余りが、財団法人柳工業デザイン研究会より本学に寄託され、これを契機としてデザインの教育、啓蒙、研究を目的として 2014 年 3 月に本研究所が設立されました。

本年報では 2014 年度から 2024 年の 10 年間にわたる研究所の活動をまとめました。展示資料室 1 では常設展示として、柳宗理デザインの流通している製品約 200 点をインテリアとして再現的に展示し、観覧者が触って使用感覚を体験できるしつらいとし、特徴あるギャラリーで好評を得ています。展示資料室 2 では、本研究所と柳工業デザイン研究会が協力し企画展を開催することにより、柳宗理の作品の美しさや、デザインに対する思想、製品までのプロセスなどを寄託作品を使って一般公開することで、普及啓発活動を推進するとともに、本学学生へのデザイン教育に大きく役立てています。その他、公開講座やギャラリー貸し出し、調査研究など多大な実績を積み上げてきました　この活動実績を活かし、寄託作品が寄贈されたこれからは、新デザインミュージアムにつなげて、さらなる研究の深化を目指して社会へ発信していく予定です。

開設 10 周年の幸福を祝いつつ、引き続き皆さまからのご支援をお願い申し上げます。

2025 年 3 月

柳宗理記念デザイン研究所

目　　次

Ⅰ　沿　　革 ―― 5
Ⅱ　基本計画 ―― 6
Ⅲ　活動実績　（事　業） ―― 8
　1　常設展示 ―― 8
　2　ミニ企画展示 23回 ―― 9
　3　企画展示　　10回 ―― 14
　4　公開講座　　28回 ―― 15
　5　ギャラリー貸し出し ―― 17
　6　調査研究　　紀要、論文、企画展冊子、パンフレット ―― 22
　7　団体見学アテンド・金沢美大デザイン科、芸術学学生への新入生ガイダンス ―― 23
　8　ウインドウディスプレイ ―― 26
Ⅳ　統　　計 ―― 27
　1　来場者数　年別
　2　臨時休所日
Ⅴ　施設概要 ―― 28
　1　施設：1階　展示資料室1（壁面硝子ケース内展示含む）・展示資料室2
　　インフォメーションコーナー・事務室
　　2階　レクチャールーム・研究書庫
　2　施設運営：開所時間・休所日
　3　施設利用規程（レクチャールーム・展示資料室2） ―― 29
　4　運営組織 ―― 30
Ⅵ　資料 ―― 32
　1　企画展示詳細 ―― 32
　　「柳宗理　歩道橋計画案展」 ―― 32
　　「柳宗理　日本民藝館ポスター展」 ―― 33
　　「シャルロット・ペリアンのデザイン」 ―― 34
　　「カッセルの柳宗理」 ―― 36
　　「柳宗理　暮らしとかたち展」 ―― 38
　　「1995・産業美術・発進」 ―― 40
　　「柳宗理　バタフライスツール60周年記念企画展」 ―― 42
　　「柳宗理と松村硬質陶磁器展」 ―― 44
　　「技術とかたち　―柳宗理の木工家具―　曲木」 ―― 46
　2　展示品リスト・所蔵品リスト ―― 48
　提　言 ―― 56
　後　記 ―― 58

Ⅰ　沿　　革

本研究所設立に先立つこと 20 年近く以前、つまり柳宗理ご本人の生前から本学に柳宗理を顕彰し、展示施設を設けたいとの希望が生まれていた。この実現に向けて、大学の研究事業としてその基礎を固める研究が継続的に展開されてきた。

また研究と並行して、大学として教育資料として柳デザイン作品の収集も進めた。こうした大学の熱意と柳工業デザイン研究会との協働が本研究所設立の基礎となった。

以下にその足跡を記す。

和暦（西暦）	月　日	事　　項
昭和30年（1955）	4月1日	金沢美術工芸大学設置（森田亀之助学長）創設、美術工芸学部美術学科（絵画専攻、彫刻専攻）、産業美術学科を置く
平成9年（1997）	4月	金沢美術工芸大学特別研究「柳宗理と協力者たち」酒井和平、荒井利春
平成15年（2003）	4月	金沢美術工芸大学特別奨励研究「柳宗理の研究、近代デザインの足跡と教育」村井光謹、秋草孝、工藤俊之、寺井剛敏、酒井和平、村中稔、黒川威人、坂本英之、角谷修、鍔隆弘
	8月13日	「柳宗理　うまれるかたち」展〔～30日、金沢市民芸術村パフォーミングスクエア〕 主催　柳宗理デザイン金沢展開催実行委員会・金沢美術工芸大学・金沢21世紀美術館建設事務局・金沢美術工芸大学同窓会、協力　柳工業デザイン研究会
平成16年（2004）	1月1日	柳工業デザイン研究会より金沢美術工芸大学に写真、写真パネル寄託受入
平成20年（2008）	4月	金沢美術工芸大学奨励研究「柳宗理先生のデザインプロセス全資料収集に向けての予備調査」代表村井光謹、共同研究者デザイン科3専攻全教員、上田恒夫、山崎剛
	6月20日	柳工業デザイン研究会より柳宗理関係資料の寄託受入、保管
平成21年（2009）	4月	金沢美術工芸大学柳宗理デザイン調査研究事業　森仁史、浅野隆、山崎剛、上田恒夫
平成22年（2010）	4月	金沢美術工芸大学柳宗理デザイン調査研究事業　森仁史、浅野隆、山崎剛、上田恒夫
平成23年（2011）	4月	金沢美術工芸大学柳宗理デザイン調査研究事業　森仁史、浅野隆、山崎剛、上田恒夫
平成24年（2012）	4月	金沢美術工芸大学柳宗理デザイン調査研究事業　森仁史、浅野隆、山崎剛
	5月1日	金沢美術工芸大学、柳宗理デザイン研究館（仮称）運営検討プロジェクト会議設置　川上明孝、森仁史、山崎剛、寺井剛敏、浅野隆、角谷修、不動美里、大路孝之、加藤謙一
	7月12日	金沢美術工芸大学、柳工業デザイン研究会と学術協力に関する協定及び柳宗理関係資料寄託契約を締結
平成25年（2013）	3月8日	森仁史、旧柳宗理軽井沢別荘の遺品調査
	3月26日	金沢市、旧菓子文化会館取得議決、柳宗理デザイン研究所設置を決定
	4月	金沢美術工芸大学柳宗理デザイン調査研究事業　森仁史、浅野隆、山崎剛 「柳宗理記念館（仮称）開設事業」
	9月2日	金沢市、旧菓子文化会館改修工事（～12月、改築、機械設備、電気設備工事）着工
平成26年（2014）	2月	運営プロジェクト会議「金沢美術工芸大学　柳宗理記念デザイン研究所」基本計画を策定
	3月3日	金沢美術工芸大学、旧菓子文化会館の展示工事（～3月25日）発注
	3月6日	金沢美術工芸大学教育研究審議会において、「金沢美術工芸大学　柳宗理記念デザイン研究所」基本計画報告、承認
	3月25日	柳工業デザイン研究会より展示資料として柳宗理作品（約198点）寄託
	3月26日	柳宗理記念デザイン研究所開所式、所長森仁史
	3月30日	金沢美術工芸大学柳宗理記念デザイン研究所展示資料室2利用規程策定
令和2年（2020）	11月24日	柳宗理寄託作品を寄贈に向けた合意書締結
令和5年（2023）	8月	柳宗理寄託作品寄贈締結

Ⅱ　基本計画

1　基本構想

本構想は、柳宗理記念デザイン研究所（以下「本施設」という。）の基本的性格や将来にわたる活動方針を定め、これらに必要な設備、スタッフなどについて明らかにし、今後の活動のよりどころとするものである。

(1) 設置の理念と目的

本学はこれまで工芸・デザイン分野において特色ある教育、研究を目指してきたところである。本施設は、日本の工業デザインにおいて屈指の足跡を残し、また本学で教鞭をとられた柳宗理氏のコレクションが本学に寄託されたのを契機とし、その積極的活用を図り、学術研究及びデザイン教育・制作活動の充実・発展、更には地域貢献を果たすことを目的とする。このため、その研究成果の蓄積・発信など、すぐれて特徴的な活動を展開することを目指すとともに、世界的に貴重な同コレクションを市民の共有財産として位置づけ、その普及啓発にも努める。

(2) 活動目標

柳工業デザイン研究会（以下「研究会」という。）から本学に寄託された 7,000 点余りの柳宗理コレクションについては、柳宗理のデザイン史における国際的位置と意義を明らかにするため、系統的な資料の整理調査や研究を進め、それに基づく展示、諸種の普及活動を展開し、また得られた研究成果を継続的に発信する。

また、これと並行して本学の教職員及び学生の研究、教育・制作活動を切磋し、これらの創造的な成果を公表する。

(3) 大学組織での位置づけ

本施設は、本学の附置機関である美術工芸研究所の傘下に設置する。

2　活動計画

《活動指針》

本計画は、本施設が所期の目標を達成するため、どのような活動を展開するのか、その方向性を示す。

《活動内容》

① 柳宗理コレクションを中心としたデザイン研究

本学と柳宗理コレクションの寄託者である研究会との間では、すでに寄託資料の学術研究について、「学術協力に関する協定書」が締結されている。これに基づき計画的に寄託資料の研究を進める。

また、寄託資料の包括的研究と保存を期するため、順次、研究会から本学への資料寄託の拡充に努める。

(1) 寄託資料の基礎調査、個別研究を推進し、その成果を蓄積・公表する。
(2) これらの研究成果を印刷物やインターネットなどにより、社会に発信し、利用の促進を図る。
(3) この研究の充実に向け、外部からの資金獲得にも努める。

② 本学学生への学習支援

柳宗理コレクションのすべての資料は、本学のカレッジモットーである「手で考え、心でくる」が示す、ものづくり精神を基本とするデザイン教育の重要な教材である。これらの活用を通じてデザイン教育・研究の充実、発展をめざす。

(1) 寄託資料の学部、大学院授業への活用を図り、また学生のデザイン制作作品の展示を実施する。
(2) 講演、展示などによる啓発活動、研究所利用を促進する。
(3) 個別研究への門戸開放、指導・助言を実施する。

③ 普及活動など地域貢献

柳宗理コレクションは、市民が共有する貴重な財産であることから、調査研究成果の蓄積が重要なことはもちろんのこと、地域文化の発展に寄与するものである。そのため、寄託資料の公表やその周辺テーマについて、市民への啓発活動を推進する。

(1) 寄託資料及び研究成果の公表、発信
(2) 市民講座の開設、講演会、ワークショップなどの実施

3　所在地

本施設は、金沢市尾張町二丁目十二番一号に置く。（ただし、旧石川県菓子文化会館の 1 階および 2 階部分）

4　施設概要（本学が使用する部分）

（1）1 階の床面積（通路除く）　251.42 ㎡

（2）2 階の床面積　一時保管庫ほか　321.0 ㎡

5　寄託された柳宗理関係資料の保管場所

本学に寄託された約 7,000 点の柳宗理関係資料は、（株）新開トランスポートシステムズ金沢営業所内（金沢市近岡町 376-1）の収蔵庫（65 坪）にて保管する。

6　運営のあり方

（1）開所時間

午前 9 時 30 分～午後 5 時（入場は午後 4 時 30 分まで）

（2）休所日

・毎週日曜日、月曜日、祝祭日

・年末年始

・その他資料搬出入などで休所することがあります。

（3）入場料　無　料

（4）駐車場　約 6 台（本施設正面）

（5）職員配置

・所長 1 人（非常勤職員：森　仁史）

・プロパー 1 人（金沢市に要望中）

・非常勤職員 1 人（小川玲美子）

7　運営会議等

（1）運営会議の設置

構成員：

山村慎哉（美術工芸研究所所長）、森　仁史（柳宗理記念デザイン研究所所長）、山崎　剛、浅野　隆、角谷　修、寺井剛敏、加藤謙一、（総括マネージャー）

（2）寄託物品にかかる管理・運営委員会の設置

（根拠：協定書、覚書）

構成員：

柳工業デザイン研究会：柳　新一、藤田光一

金沢美術工芸大学：森　仁史、浅野　隆、山崎　剛

この基本計画は、平成 26 年 3 月 6 日金沢美術工芸大学教育研究審議会に提出され承認を得たものである。

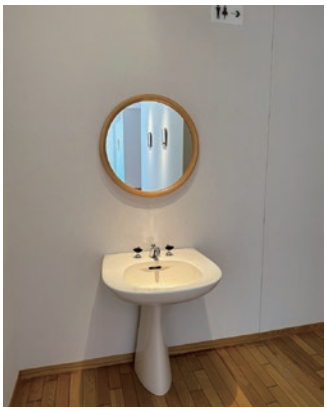
柳宗理記念デザイン研究所はこの基本計画に沿って運営された。

Ⅲ　活動実績

1　常設展示

展示資料室 1 を全面的に常設展示会場とし、市販されている柳製品による再現的展示と柳の歴史やフィロソフィを理解することができる。約 200 点の製品を使って、直にモノを見て触れて対話し体験することができることが特徴で、あえてキャプションや説明文はなくして、余計な知識や先入観なしに、無心にモノと向き合って自らの眼で素直に美を感じ取っていただくことを大切にしている。

（展示品リストはVI-2）



2　ミニ企画展示

展示資料室 1 の壁面ガラスケース内にミニ企画展示として年 3 回程展示内容を更新することで、常設展示を何度も訪れるリピーターにとって、新しい展示を楽しんでもらう試み。サイズとしては、幅 4000 高さ 800 奥行き 300mm の小さな展示スペースであるが、新たな感動と出会える企画で、この展示品については寄託されている貴重な柳の作品をテーマを持って公表することで、市民への啓発活動に繋がる。量産との違いを見つけたり、その時影響を受けた柳の歴史が見て取れる。この展示はすべて、柳工業デザイン研究会が企画から展示までを担当している。10 年間で全 23 回開催した。

・第 1 回　2014 年 3 月 26 日〜7 月 6 日
　連載企画 1「新しい工藝・生きている工藝」
・第 2 回　2014 年 7 月 8 日〜10 月 5 日
　連載企画 2「新しい工藝・生きている工藝」
・第 3 回　2014 年 10 月 7 日 ~2015 年 1 月 25 日
　「セロファンテープ・カッターのデザイン」
・第 4 回　2015 年 1 月 27 日〜 4 月 8 日
　「YANAGI SORI PAPER WORKS」
・第 5 回　2015 年 4 月 10 日〜 8 月 2 日
　連載企画 3「新しい工藝・生きている工藝」
　北欧のデザインを中心に
・第 6 回　2015 年 8 月 4 日〜 11 月 29 日
　「柳宗理の眼 × ドイツデザイン」
・第 7 回　2015 年 12 月 1 日〜 2016 年 8 月 14 日
　「柳宗理のブックデザイン vol.1」
・第 8 回　2016 年 8 月 16 日〜11 月 6 日
　「柳宗理　北沢バルブの仕事」
・第 9 回　2016 年 11 月 8 日〜2017 年 2 月 19 日
　「柳宗理　早く沸くヤカン」
・第 10 回　2017 年 2 月 21 日〜5 月 21 日
　「柳宗理　組木のパッケージ」
・第 11 回　2017 年 5 月 23 日〜 8 月 20 日（10 月 15 日）
　「ENZO MARI　柳宗理の眼 × イタリアのデザイン」
・第 12 回　2017 年 10 月 17 日〜 2018 年 1 月 21 日
　（2 月 4 日）「柳宗理　寺岡精工所の仕事」
・第 13 回　2018 年 2 月 6 日〜 5 月 13 日
　「木製の玩具」
・第 14 回　2018 年 5 月 16 日〜 9 月 16 日（12 月 16 日）
　「柳宗理　ロゴデザイン」
・第 15 回　2018 年 12 月 18 日〜 2019 年 3 月 3 日
　（3 月 24 日）
　「柳宗理の眼 × スカンジナビアのデザイン」
・第 16 回　2019 年 3 月 26 日〜 7 月 7 日（9 月 19 日）
　「柳宗理のカトラリーデザイン」
・第 17 回　2019 年 9 月 21 日〜 12 月 29 日
　（2020 年 3 月 26 日）「柳宗理 鳥の蒐集」
・第 18 回　2020 年 3 月 28 日〜 6 月 14 日（11 月 23 日）
　「柳宗理 年賀状と十二支」
・第 19 回　2020 年 11 月 25 日〜 2021 年 2 月 28 日
　（3 月 16 日）
　「柳宗理と山陰　ー牛ノ戸窯と因州・中井窯ー」
・第 20 回　2021 年 3 月 18 日〜 7 月 17 日（10 月 28 日）
　「柳宗理と山陰 –出西窯–」
・第 21 回　2021 年 10 月 30 日〜 2022 年 3 月 19 日
　（3 月 23 日）
　「柳宗理 ステーショナリーデザイン」
・第 22 回　2022 年 3 月 25 日〜 7 月 29 日
　（2023 年 3 月 26 日）
　「柳宗理の眼 × 日本の道具」
・第 23 回以降常設展示　2023 年 3 月 30 日〜
　「柳宗理デザインを支える生産地と製造元」
　【常設展示室 2 の壁面】
　「日本各地に現存する柳宗理デザイン」
　＊（）内は期間延長

第 1 回

第 2 回

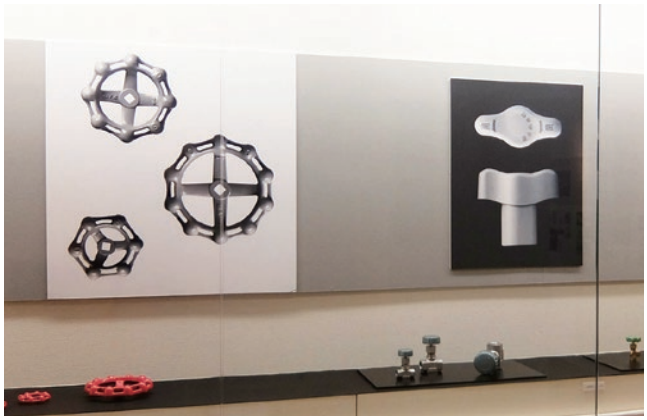
第 3 回

第 4 回

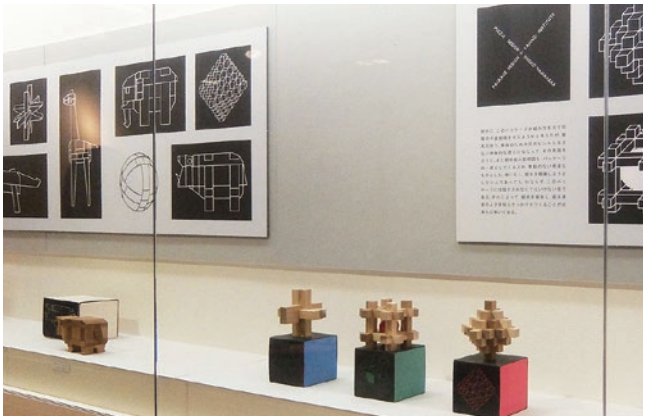
第 5 回

第 6 回

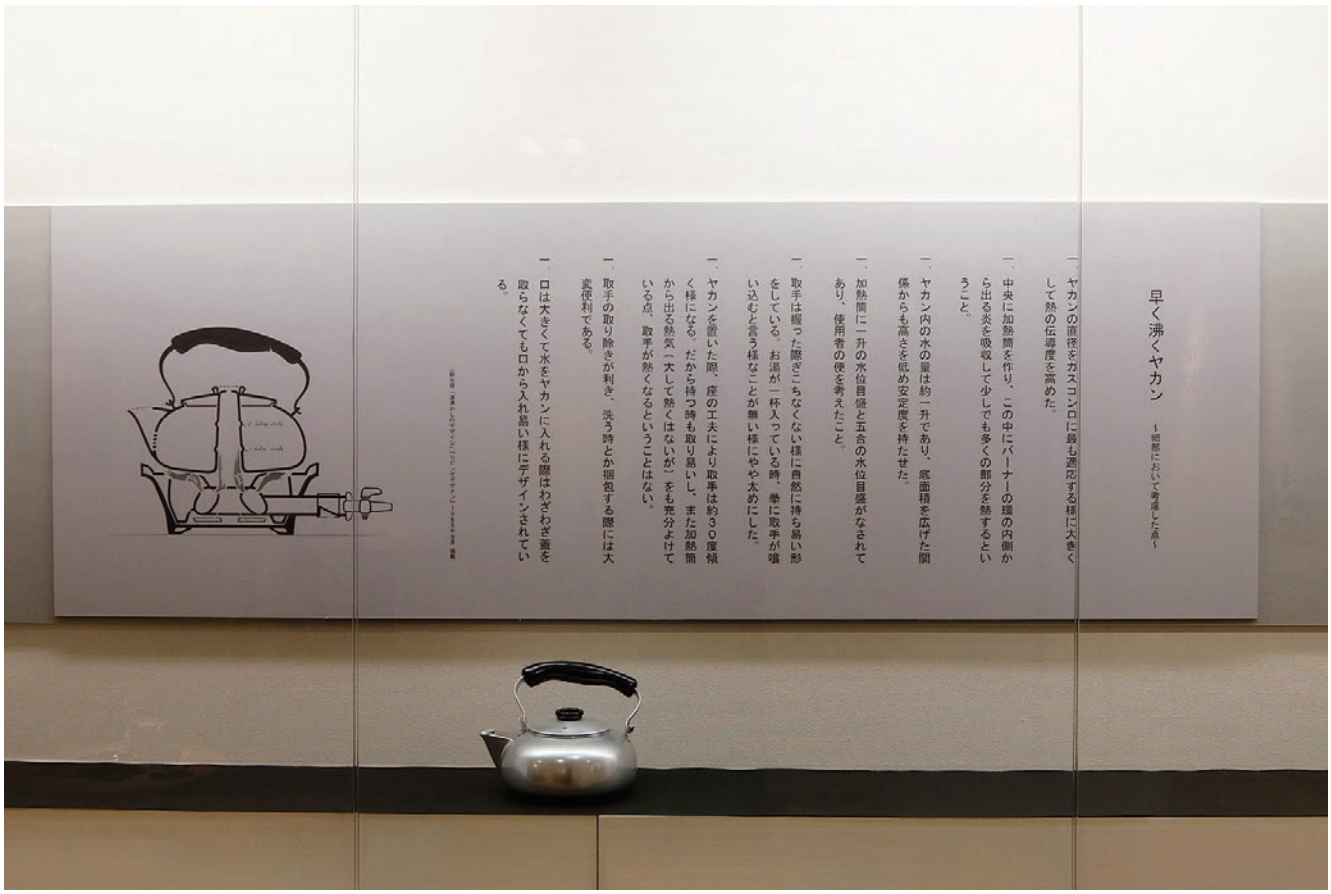
第 7 回



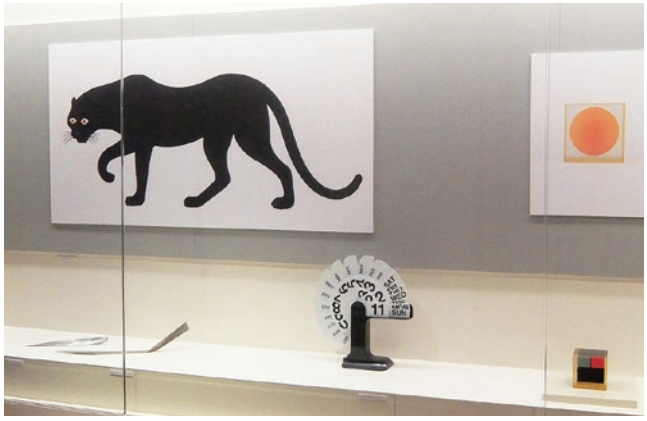
第 8 回



第 10 回

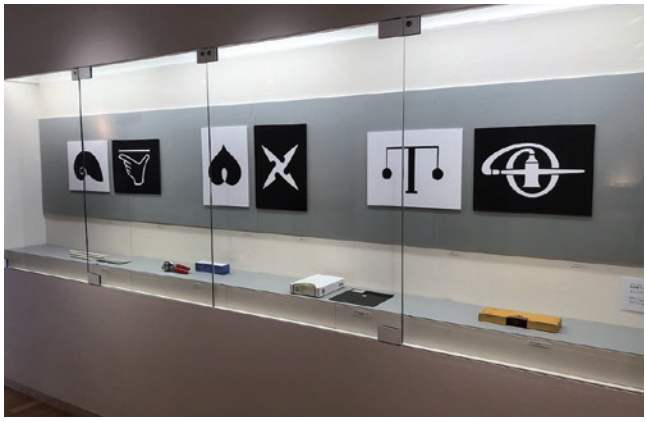


第 9 回（早く沸くヤカン）

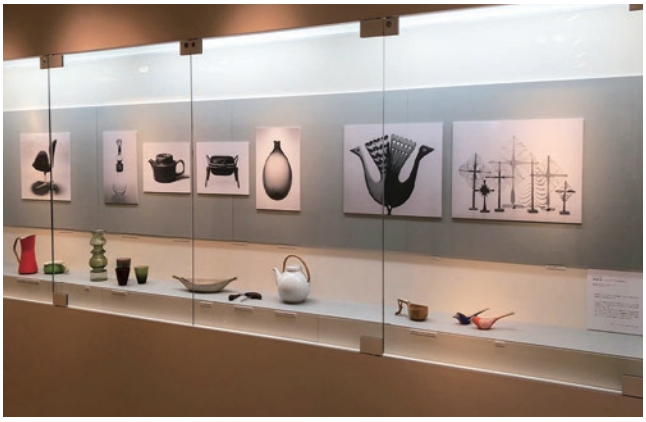


第 11 回

第 13 回



第 14 回



第 15 回

第 12 回 (寺岡精工所のはかり)

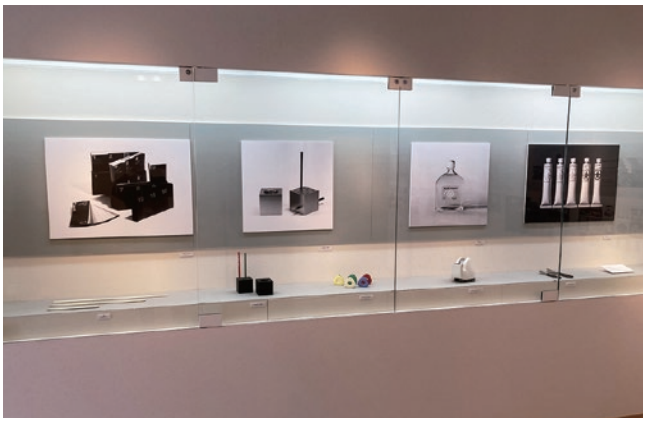
第 16 回

第 17 回

第 18 回

第 19 回

第 20 回



第 21 回

第 22 回

第 23 回（展示資料室 2）

第 23 回（柳作品の生産地）

3　企画展示

展示資料室 2 で開催する企画展示は、寄託されている 7000 点に及ぶ貴重な柳宗理の作品を一般に公開展示できる機会で、テーマに合わせ、柳宗理の発想法から、デザインのプロセス、材料の選定から、柳の形を忠実に再現するため量産に向けた製造会社との新しい製造方法の開発ややりとりなど、当時の試行錯誤が見てとれるところが、常設展示とは大きく違い重要な位置づけとしている。常設展示では見ることのできない貴重な資料は、デザイン教育にも大きな価値があり、長く活用できる。企画展示は柳工業デザイン研究会と共同で行っている。

・「柳宗理　歩道橋計画案展」
　2014 年 7 月 26 日～ 9 月 28 日
・「柳宗理　日本民藝館ポスター展」
　2015 年 7 月 10 日～ 7 月 26 日（8 月 2 日）
・「シャルロット・ペリアンのデザイン」展
　2015 年 10 月 6 日～ 11 月 29 日
・「カッセルの柳宗理　―ドイツにおける活動 1960-1961―資料集」展
　2016 年 3 月 20 日～ 5 月 15 日
・金沢美術工芸大学開学 70 周年記念
　「柳宗理　暮らしとかたち展」前期：作品編
　2016 年 10 月 11 日～ 11 月 6 日
　「柳宗理　暮らしとかたち展」後期：日用品編
　2016 年 11 月 8 日～ 12 月 4 日
・「1955・産業美術・発進　―金沢美術工芸大学のデザイン教育―」展
　2017 年 3 月 7 日～ 5 月 14 日
・「BUTTERFLY STOOL 60th」展
　2017 年 6 月 6 日～ 7 月 17 日
・「柳宗理と松村硬質陶器展　―戦後日本のテーブルウェア―」 2018 年 3 月 6 日～ 5 月 13 日
・「技術とかたち　―柳宗理の木工家具― 曲木」展
　2019 年 3 月 29 日～ 5 月 26 日

（企画展示詳細はVI-1）

＜特別企画展示＞
・「柳宗理デザイン　くらしとかたち」
　2018年11月15日～11月25日
　会場:金沢21世紀美術館　市民ギャラリーA
　来場者:1万人超え

令和2年(2020年)、令和3年(2021年)、令和4年(2022年)の主催企画展示は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

＜NHK金沢放送局企画展示＞
・DESIGN MUSEUM BOX
　「柳宗理のデザインプロセス　カトラリーを例に」
　2021年2月27日～4月3日

「BUTTERFLY STOOL 60th」展

「技術とかたち　-柳宗理の木工家具-　曲木」展

4　公開講座

レクチャールーム・展示資料室 2 を使用したギャラリートーク含めた公開講座を開催した。

柳宗理のデザイン思想に接した経験を持つ人々を講師に招き、柳宗理のデザイン教育、ものづくりに伴うデザインプロセス等について紹介する公開講座を開催する。公開講座は、それぞれの講師が柳宗理から影響を受け行ってきたことを、自分の言葉にして伝えることで、柳宗理のフィロソフィを広く伝えることができる。柳先生と金沢美大の関わりや、柳宗理という世界的工業デザイナーの仕事の一端、そして金沢美大でデザイン教育に専心された日々をうかがい知ることのできるまたとない機会である。

また、企画展に会わせ、関連した講師をお招きして、量産にいたるまでのプロセスや製造現場での柳とのやりとりや苦労を知ることで、より深く柳の作品との関わりを理解することができる。

講師本人を前にして、リアルで視聴する講演会や公開講座は、講師の息づかいや話の強弱、アドリブを加えたリアクション、その場の会場の雰囲気など感動を覚える所は多く代えがたいが、その点、オンライン講演会は、いつでも好きなときに視聴できることや、アーカイブとして残せる利点もあり、講師や内容によっては採用するべき価値は大きい。

10 年間で全 28 回開催。

・第 1 回　2014 年 10 月 4 日　酒井和平（本学名誉教授）「柳宗理先生と金沢美術工芸大学の変遷／柳宗理記念デザイン研究所の誕生」 参加者 56 名
・第 2 回　2014 年 12 月 13 日　村井光謹（本学名誉教授）「柳宗理先生との会話、その時の言葉に思う」 参加者 27 名
・第 3 回　2015 年 2 月 14 日　荒井利春（本学名誉教授）「デザイナー柳宗理と、私たち」 参加者 27 名

＊「シャルロットペリアンのデザイン」展に関連して
・第 4 回　2015 年 10 月 18 日　清水忠男（本学大学院専任教授）「デザイナーからみたシャルロットペリアン」 参加者 23 名
・第 5 回　2015 年 11 月 8 日　管澤光政（元天童木工開発部長）「成形合板の家具　柳宗理そしてペリアン」 参加者 23 名
・第 6 回　2015 年 11 月 22 日　森仁史（柳宗理記念デザイン研究所長）「ペリアンにとっての日本」 参加者 22 名
・第 7 回　2015 年 12 月 5 日　友岡秀秋（愛知県立芸術大学美術学部教授）「柳宗理の思考に学ぶ」 参加者 30 名

＊「カッセルの柳宗理―ドイツにおける活動 1960-1961―」展に関連して
・第 8 回　2016 年 4 月 16 日　保井亜弓（本学芸術学専攻教授）「戦後ドイツ美術とカッセル―ドクメンタを中心に」 参加者 11 名
・第 9 回　2016 年 4 月 23 日　坂本英之（本学環境デザイン専攻教授）「戦後ドイツの工芸・デザイン教育―バウハウス以降」 参加者 10 名
・第 10 回　2016 年 5 月 7 日　森仁史（柳宗理記念デザイン研究所長）「日本デザインとドイツ―戦前と戦後」 参加者 14 名
・第 11 回　2016 年 5 月 14 日　森田力（本学卒業生・富山大学名誉教授）　「ドイツの柳宗理の足跡を巡るカッセルでの 1 年間の調査を終えて」 参加者 30 名

＊「柳宗理　くらしとかたち展」に関連して
・第 12 回　2016 年 10 月 16 日　佐藤和子（デザインジャーナリスト・本学非常勤講師）　「柳宗理とイタリアデザイン」 参加者 24 名
・第 13 回　2016 年 10 月 22 日　西田善太（株式会社マガジンハウス「BRUTUS」編集長）「好奇心を人任せにしない　ブルータスの編集の現場から」 参加者 36 名
・第 14 回　2016 年 10 月 30 日　ナガオカケンメイ（D&Department Project 代表、デザイン活動家）「ロングライフデザイン」 参加者 38 名
・第 15 回　2016 年 11 月 12 日　テリー・エリス＆北村恵子（BEAMS ロンドンオフィスディレクター）「BEAMS fennica～柳宗理との出会いからこれまで～」 参加者 25 名

＊「1955・産業美術・発進」展に関連して
・第 16 回　平成 2017 年 4 月 8 日　森仁史（柳宗理記念デザイン研究所シニア・ディレクター）「金沢美大と日本デザイン― 1950 年代にはじまるサクセスストーリー」 参加者 18 名
・第 17 回　2017 年 4 月 22 日　清水忠男（本学大学院専任教授）「日本デザインの拓いた世界：1960－70 年代への継承と国際化への進展」 参加者 37 名

＊「BUTTERFLY STOOL 60th」展に関連して
・第 18 回　2017 年 6 月 25 日　斎藤慎也（株式会社天童木工　企画部商品開発課　係長）「天童木工・商品開発担当者によるギャラリーツアー」 参加者 26 名
・第 19 回　2017 年 7 月 8 日　清水慶太（デザイナー、クリエイティブノルム代表）「成形合板の家具デザイン現場の話」 参加者 22 名

＊「柳宗理と松村硬質陶器展―戦後日本のテーブルウェア―」に関連して
・第 20 回　2018 年 3 月 31 日　南有里子（柳宗理記念デザイン研究所学芸員）「柳宗理と松村硬質陶器展―戦後日本のテーブルウェア―」ギャラリートーク 参加者 12 名
・第 21 回　2018 年 4 月 28 日　磯谷慶子（駒沢女子大学教授）「今、陶磁器デザインがおもしろい！」 参加者 16 名

＊「鈴木啓太の線」展に関連して
・第 22 回　2018 年 8 月 5 日　鈴木啓太（本学客員教授、プロダクトデザイナー）「線がうまれる時」 参加者 57 名
・第 23 回　2018 年 8 月 12 日　鈴木啓太（本学客員教授、プロダクトデザイナー）「鈴木啓太の線」 参加者 25 名

＊「技術とかたち　―柳宗理の木工家具―　曲木」展に関連して
・第 24 回　2019 年 3 月 30 日　原恵理子（柳宗理記念デザイン研究所学芸員）「技術とかたち　－柳宗理の木工家具－　曲木」展ギャラリートーク　参加者 11 名
・第 25 回　2019 年 4 月 27 日　中川輝彦（飛騨産業株式会社デザイン室長）「飛騨の家具作り・技とデザイン」 参加者 7 名
・第 26 回　2019 年 5 月 18 日　新井竜治（芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科特任教授、九州大学総合研究博物館専門研究員）「歴史的家具の救出・研究・活用」 参加者 10 名

・第 27 回　2020 年　オンライン講演会　益田文和（本学客員教授）「デザインをチューンする」
・第 28 回　2022 年　オンライン講演会　酒井和平（本学名誉教授）「金沢美術工芸大学・工業デザインの誕生と柳宗理先生」

5　ギャラリー貸し出し

展示資料室 2・レクチャールームを貸し出した展示会及び講演会や講義、授業などの活用実績。
主にデザイン科学生の課題の成果発表展示として、広く一般公開することができるので、来場者からのフィードバック等含め､地域社会への啓蒙となっている。また、レクチヤールームでは公開プレゼン等で授業として活用することでデザイン教育の充実に役立っている。

＜平成 26 年 (2014 年) 度　展示資料室 2　展示＞
・5 月 13 日～27 日：「感ずるくつべら」展　製品デザイン 1 年演習課題 (河崎教授)
・6 月 11 日～22 日：「センシティブユーザーと共に見つける新たなデザイン」展　製品デザイン 4 年演習課題 (安島教授)
・10 月 15 日～24 日：「新しい目覚め WAKE UP!」展
製品デザイン 2 年演習課題 (河崎教授)
・11 月 14 日～29 日：「芸学博覧会－そうだ、これを買おう―」展　芸術学 3 年演習課題（水野教授）
・12 月 3 日～12 日：「手探りで使える道具のデザインユニバーサルデザイン」展　製品デザイン 2 年演習課題（安島教授）

＜平成 27 年 (2015 年) 度　展示資料室 2　展示＞
・6 月 11 日～ 6 月 17 日：「センシティブユーザーと共に見つける新たなデザイン」展
製品デザイン 4 年演習課題 (安島教授)
・8 月 4 日～ 8 月 9 日：環境デザイン専攻 3 年前期演習課題成果発表（北村教授）
・8 月 12 日～ 8 月 25 日：「金沢うちわ」展　製品デザイン 2 年演習課題（河崎教授）
・1 月 20 日～ 1 月 26 日：「片手で使えるモノのデザイン」展　製品デザイン 2 年演習課題（安島教授）
・3 月 16 日～ 18 日：「見えないものを見る力」展
基礎科目デザインⅢ、大学院生（北村教授）
＜レクチャールームの使用＞
・平成 27 年 10 月 31 日：「石川県デザインフォーラム 2015」（角谷教授）

＜平成 28 年 (2016 年) 度　展示資料室 2　展示＞
・6 月 11 日～ 6 月 27 日：「快適なヘアーセットの時間をデザイン」展
製品デザイン 3 年演習課題成果発表（河崎教授）
・6 月 29 日～ 7 月 8 日：「センシティブユーザーと共に見つける新たなデザイン」展
製品デザイン 4 年演習課題成果発表 (安島教授)
・8 月 11 日～ 8 月 26 日：「眠りのデザイン」展
製品デザイン 2 年演習課題コンセプトとかたち成果発表（河崎教授）
・12 月 7 日～ 12 月 15 日：「2 つの動作を 1 つにするモノのデザイン」展　製品デザイン 2 年演習課題ユニバーサルデザイン成果発表 (安島教授)
＜レクチャールームの使用＞
・平成 28 年 11 月 4 日「シンポジウム　金沢美大の DNA　初代学長森田亀之助の人間像と金沢」
主催：森田亀之助シンポジウム実行委員会
後援：柳宗理記念デザイン研究所・金沢美術工芸大学同窓会

＜平成 29 年 (2017 年) 度　展示資料室 2　展示＞
・7 月 20 日～ 7 月 27 日：「センシティブユーザーと共に見つける新たなデザイン」展　製品デザイン 4 年演習課題（安島教授）
・8 月 10 日～ 8 月 23 日：「眠りのデザイン」展
製品デザイン 2 年演習課題コンセプトとカタチ (河崎教授)
＜レクチャールームの使用＞
・平成 29 年 7 月 20 日 15：00 ～ 16：30 「金沢方式無電柱化事業に関するヒアリング」
主催：金沢市土木局道路建設課
・平成 29 年 10 月 18 日 17：00 ～ 20：00 「日本建築家協会北陸支部講演会」
主催：日本建築家協会

＜平成 30 年度 (2018 年度)　展示資料室 2　展示＞
・6 月 27 日～ 7 月 10 日：「センシティブユーザーと共に見つける新たなデザイン」展

製品デザイン専攻４年、工芸科陶磁コース３年演習課題（安島教授、池田教授）
・８月４日～８月19日：「鈴木啓太の線」展
（PRODUCT DESIGN CENTER、鈴木啓太氏の個展）
・12月４日～12月14日：「ながら」のデザイン」展
製品デザイン２年演習課題成果発表（安島教授）

＜令和元年度（2019年度）　展示資料室２　展示＞
・６月26日～７月９日：「センシティブユーザーと共創する器とカトラリー」展
製品デザイン専攻４年、工芸科陶磁コース３年演習課題成果発表（安島教授、池田教授）
・８月８日～８月12日：「未来のリノベーション、リノベーションの未来」展
環境デザイン専攻３年前期課題成果展（北村教授）
・10月２日～10月15日：「これからのヘアーセットの時間のデザイン」展
製品デザイン専攻２年前期課題成果発表（河崎教授）
・11月19日～29日：「ジャパンデザインミュージアム構想研究発表会 in 金沢－戦後日本のデザインはどのように成立しどこに向かうのか－」展
（D-8ジャパンデザインミュージアム設立研究委員会）
・12月10日～20日：「○○を使わずに使えるモノのデザイン」展
製品デザイン専攻２年課題成果発表展示（安島教授）
＜レクチャールームの使用＞
＊「ジャパンデザインミュージアム構想研究発表会 in 金沢」展に関して
・11月24日　第１部基調講演「ジャパンデザインと北陸工芸」
講師：桐山登士樹　（富山県美術館副館長）
・11月24日　第２部シンポジウム・トークセッション
パネリスト：暮沢剛巳（東京工科大学教授）、角谷修（本学教授）、稲垣揚平（JIDA 北陸ブロック会員）、洪恒夫（JDM 委員長・DSA 会員）司会：井出昭子（JDM 委員・JID 副理事長）
＜その他エントランス貸し出し＞
・10月27日（日）　7：30～13：00　「金沢マラソン2019 ちょっとよるまっしスポット」としてエントランス及び玄関の使用を協力

＜令和２年度（2020年度）　展示資料室２　展示＞
・7月31日～8月4日　「ここから展『人と商店街のビジョンをデザインする』」
環境デザイン専攻3年前期課題成果発表展示（北村教授）
入場者125名
・９月５日～９月17日　「これからのヘアーセットの時間のデザイン」展
製品デザイン専攻2年演習課題成果発表展示（河崎教授）
入場者340名
・12月９日～12月18日　「力を入れずに使えるモノのデザイン」展
製品デザイン専攻2年演習課題成果発表展示（安島教授）
入場者379名
・２月27日～４月３日　「DESIGN MUSEUM BOX 柳宗理のデザインプロセス カトラリーを例に」
（NHK エデュケーショナル）　入場者968名
＜レクチャールームの使用＞
・11月７日10：00～17：00
「日本空間デザイン協会北陸支部デザインセミナー」
主催：日本空間デザイン協会北陸支部
講師：出原秀仁（一般社団法人日本空間デザイン協会専務理事）　参加者９名（本講演はオンライン同時配信による視聴を実施した）

＜令和３年度（2021年度）　展示資料室２　展示＞
・４月４日～10月29日　第20回ミニ企画展示「柳宗理と山陰－出西窯－」の連動企画として「黒土瓶 復刻」を上映
・６月22日～７月１日　「ペットボトルに代わる飲料提供の提案」展　（安島教授・池田教授、製品デザイン４年・工芸３年　製品デザイン演習（四）・工芸演習（三）陶磁　合同作品展示）　入場者221名
・12月８日～12月17日「手を使わない・手の負担を減らすデザイン」展　製品デザイン専攻２年の演習授業成果発表展（安島教授）　入場者323名

＜レクチャールームの使用＞

・7 月 17 日　「金沢国際交流特使養成塾第 2 回：金沢文豪・泉鏡花ガイドツアー＆紙芝居」
　主催：金沢市姉妹都市交流委員会
　参加者 12 名、講師 2 名、職員 7 名

＜令和 4 年度 (2022 年度)　展示資料室 2　展示＞

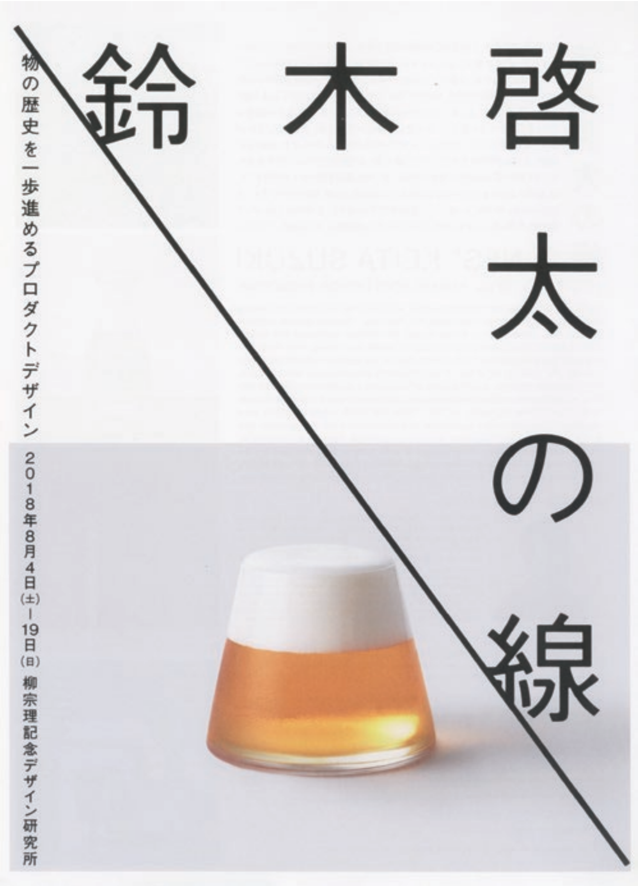
・6 月 18 日～6 月 30 日　「ボトル展ーペットボトルに代わる陶磁ボトルと新しい飲料提供の提案ー」展
　製品デザイン 4 年・工芸 3 年 (陶磁)　　合同演習授業作品展示 (安島教授・池田教授)　入場者 351 名
・8 月 6 日～8 月 9 日　「リノベ展」
　環境デザイン 3 年演習授業成果発表展示 (北村教授)
　入場者 127 名
・10 月 7 日～10 月 12 日　「これからのヘアーセットの時間デザイン」　展
　製品デザイン専攻 2 年演習課題成果発表展示(河崎教授)
　入場者 383 名
・12 月 16 日～12 月 22 日　「片手で使えるデザイン」展
　製品デザイン専攻 2 年演習課題成果発表展示(安島教授)
　入場者 166 名

＜令和 5 年度 (2023 年度)　展示資料室Ⅱ貸し出し＞

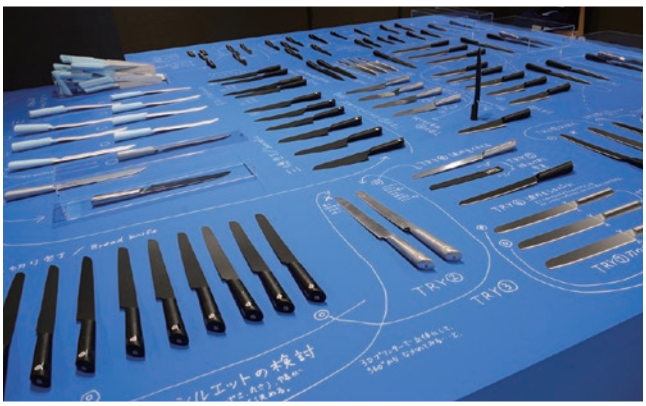
・6 月 17 日～6 月 30 日　「センシティブユーザーと共創する器とカトラリー」展
　製品デザイン 4 年・工芸 3 年 (陶磁)　合同演習課題作品展示 (安島教授・池田教授)　入場者数：430 名

＜レクチャールームの使用＞

・6 月 20 日　環境デザイン 3 年、什器デザイン演習の基礎レクチャー（北村教授）

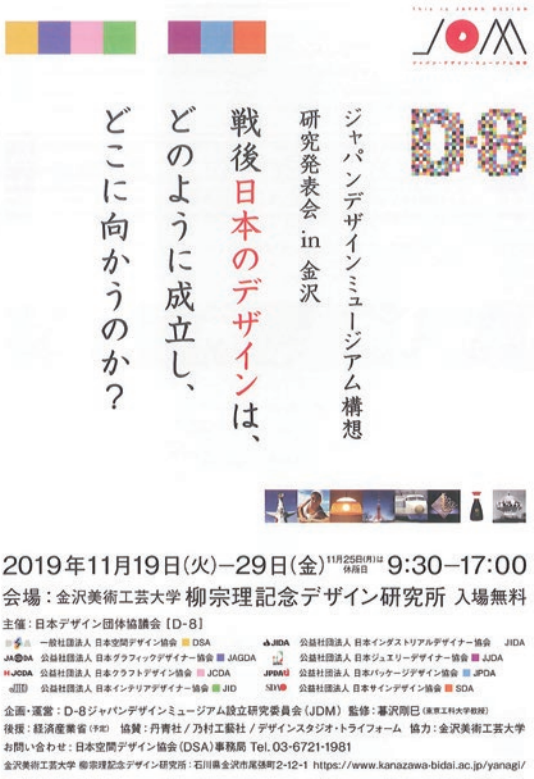

鈴木啓太の線
物の歴史を一歩進めるプロダクトデザイン
2018年8月4日(土)－19日(日)
柳宗理記念デザイン研究所

鈴木啓太の線
35歳という若さで、日用品から鉄道車両まで幅広い領域を手掛けるプロダクトデザイナーの鈴木啓太。彼が主宰するPRODUCT DESIGN CENTER初の個展会場となるのは、日本のプロダクトデザインの礎を築いた柳宗理ゆかりの、柳宗理デザイン研究所です。同所初の柳以外のデザイナー展、「鈴木啓太の線」展では、近作に加えこれまであまり語られなかったプロセス、また数百の緻密なプロトタイプや映像を展示し、鈴木独自の感性が形になるまでを紹介。造形の基本となる「線」を軸に、プロダクトデザインの最前線をお見せします。柳宗理が活躍した1964年の東京オリンピックを経て、折しも2回目のオリンピックが東京へやってくる今。異なる時代に生きながらも、多くの共通点を持つ2人のデザインには、社会へのどんなメッセージが込められているのでしょうか。柳宗理のデザインが現代のスタンダードになったように、鈴木のデザインもまた、次世代のスタンダードを目指して作られています。未来へ続くものづくりの現場を、ぜひ体感してください。
"LINES" KEITA SUZUKI
2018.8.4 SAT - 19 SUN YANAGI SORI DESIGN MEMORIAL
Keita Suzuki is a leading product designer who has dealt with products ranging from consumables to train carriages. His company - Product Design Center - presents its first exhibition at the Yanagi Sori Design Memorial, the facility named after the pioneer of product design in Japan, Sori Yanagi. This will be the first time the Memorial has held an exhibition for any designer other than Yanagi himself. The 'Line by Keita Suzuki' exhibition will showcase his latest designs, his production process, and hundreds of elaborate prototypes to demonstrate how his ideas have evolved and developed. Sori Yanagi was a major contributor to the first Tokyo Olympics, in 1964. With the 2020 Tokyo Olympics now imminent, the exhibition contrasts and examines both similarities and differences in design philosophy and social message. became a standard for modern Japanese design, Suzuki's design also aims to be a standard for the next generation. This is a rare opportunity to see how product design and society more widely has evolved, embodied by two of the leading designers of their day.
鈴木啓太　KEITA SUZUKI
EVENT INFORMATION
トークショーなどの関連イベントについては、PRODUCT DESIGN CENTERのHPをご覧ください。
Information on talks and events will be updated on the website of Product Design Center.
→ http://www.productdesigncenter.jp/exhibition
YANAGI SORI DESIGN MEMORIAL


TRY②
TRY③
シルエットの検討

That's what I realised after I became a professional designer

＜ジャパンデザインミュージアム構想研究発表会 in 金沢＞



6　調査研究

柳宗理及び同時代のデザインの調査研究を継続的に展開し、寄託作品の生まれる現地調査を行い、その成果を紹介する企画展示・公開講座を開催する。それらをまとめた論文や企画展の冊子の発行を行う。また、インフォメーションコーナーでは柳宗理関連書籍や関連情報を提供し、柳宗理やデザインの研究の場として広く活用できる。

経常的に柳工業デザイン研究会と情報共有を図り、柳宗理データベースの構築を行っている。

・2014 年「白い磁器シリーズについて現地調査」
10 月 2 日　岐阜県セラミック研究所所蔵作品調査
この研究所に残された製造台帳とそこから特定できた所蔵品を調査（計測・撮影）した。
2 月 5 日　岐阜県陶磁器試験場 OB へのインタビュー
柳製品制作の具体的な経過など。竹本紀明、戸高栄弘。

・2015 年「シャルロットペリアンのデザイン」展に向けた調査研究。詳細は展覧会冊子「シャルロットペリアンのデザイン」に掲載。

・2016 年「カッセルの柳宗理」展に向けた調査研究。
森田力資料：柳宗理のカッセル招聘を独自に調査された森田力収集資料を借用し、目録作成、撮影を行った。詳細は展覧会冊子「カッセルの柳宗理」に掲載。

・2017 年「1955・産業美術・発進」展に向けた調査研究。
五井英夫資料：本学開設時に産業美術学科教授に就任した五井英夫（1904-1986）旧蔵資料を五井建築研究所から借用し、一部を複写した。
本学保存薄冊：本学の大学設置時の経緯を知るため、大学事務局が事務文書として保管している資料を調査した。全てを整理することはできなかったが、大学設置に到る経緯を期した文書を確認することができた。公文書以外に事務局長が手元用に保管していた書簡や写真は大学設置の経緯を知る基本資料として綿密に調査し一部を複写した。大学保管文書には残っていなかった文書も保管されており、ここから、柳宗理、大智浩の着任時期が 1955 年ではなく、1956 年に嘱託教授としてであったことなど極めて重要な事実を明らかにすることができた。詳細は展覧会冊子「1955・産業美術・発進」に掲載。

・2017 年「柳宗理と松村硬質陶器展」に向けた調査研究。詳細は展覧会冊子に掲載。

・2018 年「技術とかたち　ー柳宗理の木工家具ー　曲木」展に向けた調査研究。詳細は展覧会冊子に掲載。

・2019 年「1964 年東京オリンピック」調査
2020 年東京オリンピックを目前に控え、1964 年東京オリンピックにおける柳宗理の活動を調査した。
1964 年東京オリンピックにて柳は、トーチホルダーや聖火コンテナーを初めとした製品のデザインを行っている。本学に寄託されたトーチホルダー及び聖火コンテナーの図面の詳細な調査を行い、将来の利用に備えて東京オリンピックに関連する柳の活動を年表にまとめた。
また、当時のデザイン雑誌や、国立国会図書館所蔵のオリンピック組織委員会の紀要及び報告書など文書調査を行い、それらのデータ集積を行った。

・2020 年 5 月　大学内保管の柳宗理寄託作品を外部倉庫に移動した。

・2020 年 6 月 ~10 月　寄贈合意の締結に向け全ての寄託作品を整理確認し、資料リストを作成した。

・柳宗理データベース構築
経常的に下記の調査項目について調査を続け、柳工業デザイン研究会との情報共有を図る。この基礎として、1998 年にセゾン美術館で開催された展覧会図録に掲載された「柳宗理年譜」及び「主要参考文献」をデジタル化し、作品、著作データベースの基礎とした。このデータは金沢美術工芸大学ホームページに公開し、最新の調査研究を公表し、随時更新していく予定である。

a. 柳宗理の執筆した記事や作品にまつわる雑誌、図書、等の資料を収集する。
b. 上記の資料に基づいて、随時判明した作品データ（名称、画像、発表年、典拠など）と発表文（タイトル、掲載誌、発表年月日）などを追加入力する。

7　団体見学アテンド

延べ 125 団体、2784 名（2014 年 -2023 年）

金沢美術工芸大学デザイン科、芸術学専攻、工芸科の新入生ガイダンスや授業を含め、以下の団体見学を受け入れ、柳宗理の作品や思想などをガイダンス、アテンドした。

＜平成 26 年 (2014 年) 度　団体見学内訳＞

・4 月 15 日　金沢美術工芸大学 (以下金沢美大) 環境デザイン学生 20 名。
・4 月 17 日　金沢美大環境デザイン学生 22 名。
・5 月 7 日　金沢美大製品デザイン学生 22 名。
・5 月 10 日　石川工業高等専門学校学生 17 名。
・5 月 16 日　石川県立羽咋工業高等学校学生 39 名
・5 月 17 日　金沢工芸子ども塾ワークショップ 23 名。
　仁愛女子短期大学 (福井) 学生 50 名。
・5 月 25 日　有限会社豊中建設 (愛知)18 名。
・6 月 25 日　輪島漆器会婦人会 14 名。
・6 月 26 日　金沢美大製品デザイン学生講義 (講師：柳新一氏)22 名。
・6 月 27 日　金沢美大製品デザイン学生講義 (講師：柳新一氏)24 名。
・8 月 2 日　金沢美大製品デザイン学生 17 名。
・8 月 3 日　小坂校下婦人会 (金沢市)24 名。
・8 月 7 日　小坂校下婦人会 (金沢市)21 名。
・8 月 9 日　金沢ロータリークラブ 9 名。
・8 月 20 日　武蔵野美術大学 (東京)22 名。
・8 月 27 日　石川県輪島漆芸美術館友の会 26 名
・9 月 3 日　富樫校下婦人団体 28 名。
・9 月 12 日　三馬校下婦人会 26 名。
・9 月 20 日　金沢市婦人会湖南ブロック 24 名。
・10 月 4 日　有限会社もるくす建築社 (秋田)20 名。
・10 月 7 日　長町地区婦人会 25 名。
・11 月 6 日　金沢美大大学院デザイン科学生 14 名。
・1 月 24 日　京都造形大学 21 名。
　酒井和平（本学名誉教授）OB 向け講演 11 名。

＜平成 27 年 (2015 年) 度　団体見学内訳＞

・4 月 11 日　弥生公民館　20 名
・4 月 15 日　不詳　21 名
・5 月 17 日　中部デザイン協会　62 名
・5 月 21 日　金沢赤とんぼの会　45 名
・5 月 23 日　仁愛女子短期大学　39 名
・5 月 28 日　能美市博物館友の会　30 名
・6 月 17 日　金沢美大視覚デザイン専攻　22 名
・6 月 30 日　不詳　8 名
・7 月 11 日　日本民藝協会　49 名
・7 月 18 日　薬師谷地区女性の会　20 名
・7 月 25 日　金沢市プロモーション推進課　14 名
・8 月 20 日　小立野降下婦人団体　25 名
・8 月 26 日　不詳　10 名
・9 月 6 日　不詳　12 名
・9 月 19 日　埼浦地区婦人会　23 名
・11 月 5 日　金沢ハウジングスクール　48 名
・11 月 13 日　弥生さくら女性学級　20 名
　越後の国染織文化研究会　25 名
・11 月 17 日　金沢美大工芸科原教授と韓国の美術大学学生 17 名
・12 月 25 日　名古屋学芸大学　25 名
・1 月 29 日　不詳　18 名
・2 月 2 日　北陸スキー団（中国）　20 名
・3 月 1 日　活水女子大学　33 名
・3 月 16 日　京都市立芸術大学版画科　22 名

＜平成 28 年（2016 年）度　団体見学内訳＞

・4 月 27 日　不詳　21 名
・4 月 29 日　不詳　12 名
・5 月 12 日　高崎ロータリークラブ　13 名
・5 月 14 日　金沢工芸子ども塾　20 名
・5 月 20 日　高岡中学校　26 名
・9 月 14 日　婦人団体、駒沢女子大学　35 名
・10 月 20 日　金沢市役所（金沢市納税協力会　連合会）33 名
・11 月 9 日　芳斎公民館女性学級　9 名
・11 月 12 日　埼浦校下婦人部　27 名

・3 月 8 日　京都嵯峨芸術大学　18 名
・3 月 18 日　不詳　10 名
・3 月 28 日　北國文化センター　14 名

＜平成 29 年（2017 年）度　団体見学内訳＞
・4 月 15 日　仁愛女子短期大学　60 名
・4 月 20 日　金沢美大製品デザイン 1 年生　20 名
・4 月 21 日　金沢美大視覚デザイン 1 年生　20 名
・6 月 20 日　金沢美大環境デザイン 3 年生　21 名
・9 月 16 日　埼浦地区婦人会　22 名
・10 月 25 日　富樫小学校保護者会　31 名
・1 月 21 日　不詳　30 名
・2 月 23 日　活水女子大学生活デザイン学科　16 名

＜平成 30 年（2018 年）度　団体見学内訳＞
・4 月 20 日　金沢美大製品デザイン専攻　23 名
・4 月 23 日　金沢美大視覚デザイン専攻　20 名
・4 月 24 日　金沢美大環境デザイン専攻　20 名
・6 月 20 日　金沢美術大製品デザイン専攻　21 名
・6 月 27 日　金沢美大製品デザイン専攻・工芸科　20 名
・9 月 16 日　日本オフィス学会　10 名
・9 月 19 日　札幌市立大学　34 名
・10 月 12 日　釜山訪問団　25 名
・10 月 29 日　大阪市立工芸高校　8 名
・11 月 11 日　金沢市城南公民館　55 名
・11 月 20 日　金沢市立諸江町小学校　11 名

＜令和元年（2019 年）度　団体見学内訳＞
・4 月 13 日　仁愛女子短期大学　34 名
・4 月 17 日　船井総合研究所ビックリ企業びっくり事例視察セミナー高山・北陸編　16 名
・4 月 23 日　金沢美大視覚デザイン専攻　23 名
・4 月 24 日　金沢美大環境デザイン専攻　20 名
・4 月 24 日　金沢美大芸術学専攻新入生　17 名
・4 月 25 日　金沢美大製品デザイン専攻　23 名
・6 月 26 日　金沢大学国際機構　20 名
・6 月 26 日　金沢美大製品デザイン 4 年生への作品展講義　柳新一（本学客員教授）　21 名
・6 月 27 日　金沢かがやき発信講座 / 金沢市田上公民館　15 名
・7 月 2 日　金沢美大環境デザイン 2 年生の校外講義柳宗理の椅子のスケッチ調査　21 名
・8 月 7 日　金沢美大環境デザイン 3 年生の作品展－代表作品のプレゼン発表－　34 名
・8 月 29 日　不詳　17 名
・9 月 8 日　ジャパンデザインミュージアム設立研究会　6 名
・10 月 8 日　喜多ハウジング (金沢市)　16 名
・10 月 29 日　武蔵野美術大学美術史研究室　8 名

＜令和 2 年（2020 年）度　団体見学内訳＞
・4 月 13 日　村山副市長、観光政策課職員　7 名
・12 月 8 日　アリス学園　20 名
・3 月 27 日　兵庫県立明石高等学校　41 名

＜令和 3 年（2021 年）度　団体見学内訳＞
・4 月 15 日　金沢美大環境デザイン専攻 3 年演習授業　23 名
・4 月 20 日　金沢美大視覚デザイン専攻新入生　21 名
・4 月 21 日　金沢美大環境デザイン専攻新入生　21 名
・4 月 23 日　金沢美大製品デザイン専攻新入生　21 名
・5 月 8 日　金沢工芸子ども塾　18 名
・6 月 24 日　金沢美大環境デザイン専攻 3 年演習授業　25 名
・7 月 2 日　金沢美大デザイン専攻修士課程　4 名
・7 月 17 日　金沢市姉妹都市交流委員会「金沢国際交流特使養成塾第 2 回：金沢文豪・泉鏡花ガイドツアー＆紙芝居」 21 名
・10 月 29 日　上田安子服飾専門学校　13 名

＜令和 4 年 (2022 年) 度　団体見学内訳＞

・4 月 19 日　金沢美大視覚デザイン専攻新入生　23 名
・4 月 20 日　金沢美大環境デザイン専攻新入生　21 名
・4 月 22 日　金沢美大製品デザイン専攻新入生　22 名
・6 月 23 日　金沢美大環境デザイン専攻 3 年演習授業　22 名
・7 月 13 日　愛知県立芸術大学　美術学部デザイン・工芸科　陶磁専攻　11 名
・7 月 15 日　筑波大学 芸術専門学群　12 名
・8 月 24 日　嵯峨美術大学　芸術学部　デザイン学科　12 名

＜令和 5 年 (2023 年) 度団体見学内訳＞

・4 月 27 日　金沢美大インダストリアルデザイン専攻新入生ガイダンス　21 名
・5 月 25 日　金沢美大ホリスティックデザイン専攻新入生ガイダンス　41 名
・6 月 20 日　金沢美大環境デザイン専攻 3 年演習授業　20 名
・7 月 2 日　燕三条デザイン研究会　13 名
・7 月 6 日　金沢美大芸術学専攻授業　11 名
・10 月 31 日　WDA ツアー　16 名
・11 月 30 日　岩手県立産業技術短期大学 (デザイン科)　22 名
・12 月 22 日　金沢美大工芸史授業　6 名
・3 月 15 日　ワールド航空サービスツアー　5 名

＜見学の様子＞

団体見学

金沢工芸子ども塾

製品デザイン専攻新入生ガイダンス

環境デザイン専攻演習課題プレゼンテーション

8　ウインドウディスプレイ

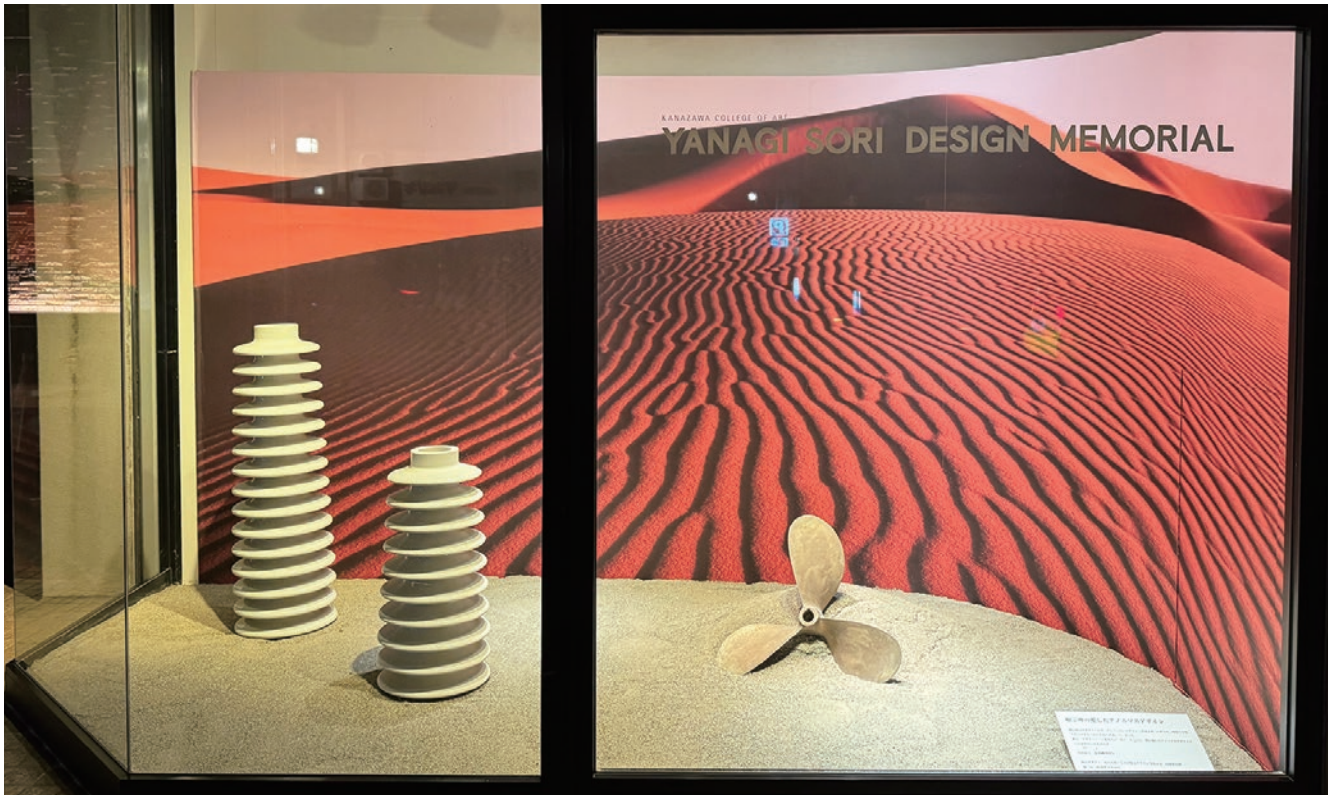
ウインドウディスプレイは、柳宗理記念デザイン研究所のファサードに隣接していて、柳宗理の紹介(考えや思想を含む)や、柳宗理デザインの作品、本研究所の紹介等を、閉所日や閉所後の夜の時間帯も夜間照明により常時公開しアピールできる展示スペースとして活用している。

開所初期の展示デザインは柳工業デザイン研究会が担当したが、2回目は本学環境デザイン専攻内のコンペにより採用された。3回目は柳工業デザイン研究会が担当した。

環境デザイン新井さんのデザイン　2016～

開所時のデザイン 2014～

壁の色替え　2017～



現在のウインドウディスプレイデザイン　2018 年～

Ⅳ　統　計

1　来場者数

＜2014 年度～2023 年度＞

年度	団体見学	団体人数	来場者合計
2014	28	669	12,517
2015	23	603	14,976
2016	12	238	15,775
2017	8	220	13,533
2018	11	247	13,653
2019	15	291	13,326
2020	3	68	7,917
2021	9	167	6,949
2022	7	123	13,511
2023	9	158	14,694
合計	125	2,784	126,851

10 年間で来場者合計　126,851 人

1 年間約 300 日開所とすると月平均 1,057 人

1 日平均　42.2 人

2　臨時休所日

新型コロナウイルス感染症パンデミックにより以下の期間を臨時休所とした。

＜2019 年度＞

2020 年 2 月 28 日～3 月 15 日（15 日間）

＜2020 年度＞

2020 年 4 月 11 日～5 月 31 日（50 日間）

＜2021 年度＞

2021 年 5 月 12 日～6 月 13 日（33 日間）

2021 年 7 月 31 日～9 月 30 日（62 日間）

V　施設概要

1　施設

1 階

展示資料室 1　　107.7 ㎡

展示資料室 2　　65.0 ㎡

インフォメーションコーナー　　15 ㎡

事務室　　35.9 ㎡

2 階

レクチャールーム　90.5 ㎡　40 席

研究書庫　　60.3 ㎡

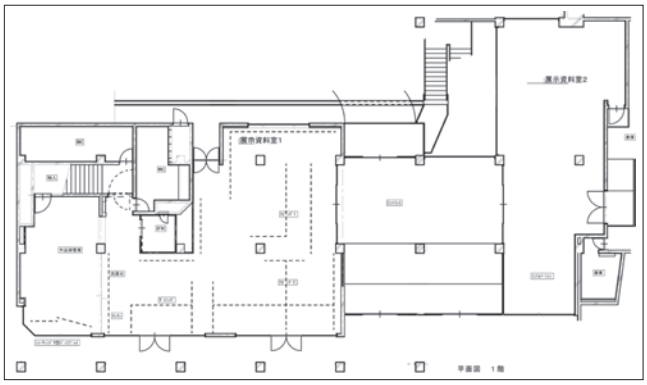
会議室　　48.9 ㎡

2　施設運営

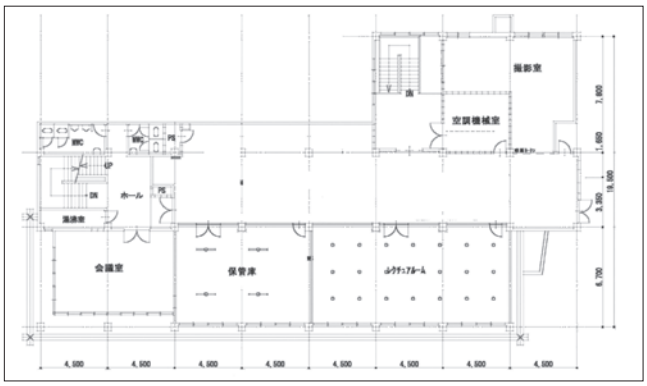
開所時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時

休所日：毎週月曜日 (月曜が祝日の時は開所)、年末年始、その他資料搬出入で休所することがあります。

入館料：無料



1 階平面図



2 階平面図

展示資料室 1

展示資料室 2

レクチャールーム

研究書庫

3　施設利用規程

金沢美術工芸大学
柳宗理記念デザイン研究所
平成 26 年 3 月 30 日
平成 27 年 1 月 19 日改定
平成 27 年 6 月 17 日改訂

本規程は柳宗理記念デザイン研究所活動計画の活動目標を達成し、デザイン啓蒙を図るため、その利用の細目を定めるものである。

1．柳宗理記念デザイン研究所（以下、研究所）内の展示資料室２（65.0 ㎡）、レクチャールーム（㎡）を利用するときは、申請書に必要事項を記入し、資料（企画書、作品写真等）を添付の上、申請者は担当教員の確認を得て研究所に開催 4 週間前までに提出し許可を得ることとする。
2．利用は以下の内容のものとし、利用期間は 1 日もしくは 2 週間（14 日、休所日を含む。展示の場合の搬出入日は開所日とし、利用期間には含まない。）を単位とする。利用は無料とし、申し込みは開催の 6 カ月前から研究所で受付ける。
　（1）教員の授業及び地域連携活動
　（2）本学の教育活動の一環としての展示、レクチャー、解説などのイベント
　（3）（2）に準ずる学生の自主的活動
　（4）地域団体のデザイン啓蒙活動
3．利用に際して、その目的が次のいずれかの内容を満たしていることを条件として許可する。
　（1）柳宗理のデザイン活動に関連する事業
　（2）金沢美術工芸大学の教育活動を支援する事業
　（3）地域のデザイン啓蒙に資する事業
　（4）その他研究所長が必要と認めた事業
4．利用内容は柳宗理記念デザイン研究所運営委員会及び金沢美術工芸大学美術工芸研究所運営会議が開催される都度報告する。
5．展示、講習会などの開催に際しては、設営、受付、広報、撤収等は利用者が責任を以って行うこととする。
6．事前準備及び設営などの準備作業と事業実施のための施設利用に当たっては、研究所の指示に従うこととする。
7．施設の利用に当たって、上記以外に必要な事項については研究所がその都度判断し、決定する。
8．展示資料室２の利用に際し、研究所が保有する展示用品及び貸出備品は別表１の通りである。これらの使用を希望するものは申請書にその旨記入する。
9．レクチャールームの設備備品は別表２の通りである。この利用も事前に申請書に記入する。

4　運営組織

＜組織＞

平成 22 年 4 月 1 日の学内規定によれば、柳宗理記念デザイン研究所は、金沢美術工芸大学美術工芸研究所の内部組織として、次の事業を行うとされた。

(1) 美術、工芸及びデザインに関する調査研究

(2) 芸術資料の収集と管理

(3) 研究活動の推進と研究成果の発信

柳宗理記念デザイン研究所長は、美術工芸研究所運営会議に参加する。

（柳宗理記念デザイン研究所）規定として

第 7 条の 2　柳宗理記念デザイン研究所は、次に掲げる職員をもって組織する。

(1) 柳宗理記念デザイン研究所長

(2) 事務局職員

2 前項第1号の任期は､1年とする｡但し再任を妨げない。

3 柳宗理記念デザイン研究所長は、美術工芸研究所長の監督のもとに、柳宗理記念デザイン研究所を統括し、柳宗理記念デザイン研究所に属する職員を指揮監督する。

4 柳宗理記念デザイン研究所の職員は、担当する事業の内、柳宗理記念デザイン研究所長が指示する事業を行う。

＜柳宗理記念デザイン研究所運営会議＞

開所当初の 2014、2015 年度においては美術工芸研究所運営会議とは別に、柳宗理記念デザイン研究所運営会議が設けられた。メンバーは以下の通り。

2016 年度よりこの会議は廃止されている。

氏名	所属	職名
山村慎哉	美術工芸研究所	所長・教授（工芸科）
森　仁史	柳宗理記念デザイン研究所	所長
山崎　剛	金沢美術工芸大学	教授（芸術学）
浅野　隆	金沢美術工芸大学	教授（ID）
角谷　修	金沢美術工芸大学	教授（IAD）
寺井剛敏	金沢美術工芸大学	教授（VD）
加藤謙一	美術工芸研究所	学芸員
池上　渉	企画総務担当理事	事務局職員

＜管理・運営委員会＞

この組織とは別に、 2012 年 7 月 12 日に柳工業デザイン研究会と金沢美術工芸大学で締結された「学術協力に関する協定書」の覚書として、事業を管理運営する｢管理･運営委員会｣が 2014 年 2 月 24 日に設置された。メンバーは配下の通り。

氏名	所属	職名
柳　新一	柳工業デザイン研究会	理事長
藤田光一	柳工業デザイン研究会	デザイン主任
山崎　剛	金沢美術工芸大学	教授（芸術学）
浅野　隆	金沢美術工芸大学	教授（ID）
森　仁史	柳宗理記念デザイン研究所	所長

2014 年 12 月 13 日に寺井教授が追加され、2020 年 7 月 16 日に北村教授、安島所長が追加された。

2023 年 4 月以降現在は以下の通り。

氏名	所属	職名
柳　新一	柳工業デザイン研究会	理事長
藤田光一	柳工業デザイン研究会	デザイン主任
山崎　剛	金沢美術工芸大学	教授（芸術学）
浅野　隆	金沢美術工芸大学	教授（ID）
寺井剛敏	柳宗理記念デザイン研究所	所長・教授（HD）
北村賢哉	金沢美術工芸大学	教授（HD）

＜職 員＞

2014 年度 - 2015 年度

氏名	所属	職名
森　仁史	柳宗理記念デザイン研究所	所長
小川玲美子	柳宗理記念デザイン研究所	非常勤学芸員
加藤謙一	美術工芸研究所	学芸員

2016 年度

氏名	所属	職名
村中　稔	金沢美術工芸大学	所長・教授（ID）
森　仁史	柳宗理記念デザイン研究所	シニアディレクター
小川玲美子	柳宗理記念デザイン研究所	非常勤学芸員
加藤謙一	美術工芸研究所	学芸員

2017 年度

氏名	所属	職名
村中　稔	金沢美術工芸大学	所長・教授（ID）
森　仁史	柳宗理記念デザイン研究所	シニアディレクター
南有里子	柳宗理記念デザイン研究所	非常勤学芸員
加藤謙一	美術工芸研究所	学芸員

2018 年度からは、美術工芸研究所所長が柳宗理記念デザイン研究所所長を兼任することになった。

2018 年度

氏名	所属	職名
山本建史	美術工芸研究所	所長・教授（工芸）
加藤謙一	美術工芸研究所	学芸員
南有里子	柳宗理記念デザイン研究所	非常勤学芸員
原恵理子	柳宗理記念デザイン研究所	非常勤学芸員
片岡夏凛	柳宗理記念デザイン研究所	非常勤学芸員

2019 年度

氏名	所属	職名
山本建史	美術工芸研究所	所長・教授（工芸）
在田有里子	美術工芸研究所	学芸員
鈴木彩可	柳宗理記念デザイン研究所	非常勤学芸員
河村秀敏	柳宗理記念デザイン研究所	非常勤学芸員
片岡夏凛	柳宗理記念デザイン研究所	非常勤学芸員

2020 年度

氏名	所属	職名
安島　諭	美術工芸研究所	所長・教授（ID）
在田有里子	美術工芸研究所	学芸員
頓宮佑佳	柳宗理記念デザイン研究所	非常勤学芸員

2021 年度

氏名	所属	職名
安島　諭	美術工芸研究所	所長・教授（ID）
在田有里子	美術工芸研究所	学芸員
佐々木千嘉	柳宗理記念デザイン研究所	非常勤職員

2022 年度からは、教育研究審議員の中から選任され柳宗理記念デザイン研究所所長を兼任した。

2022 年度

氏名	所属	職名
寺井剛敏	金沢美術工芸大学	所長・教授（HD）
在田有里子	美術工芸研究所	学芸員
佐々木千嘉	柳宗理記念デザイン研究所	非常勤職員

2023 年度

氏名	所属	職名
寺井剛敏	金沢美術工芸大学	所長・教授（HD）
在田有里子	美術工芸研究所	学芸員

VI 資 料

「柳宗理　歩道橋計画案展」

■会期：2014 年 7 月 26 日（土）～ 9 月 28 日（日）
　　9 時 30 分～ 17 時 00 分　休所日：月曜日
■会場：柳宗理記念デザイン研究所　展示資料室 2
■主催：金沢美術工芸大学　柳宗理記念デザイン研究所

■概要

1950 年代後半から日本では急速に道路建設が進みます。交通量が増加し、渋滞や交通事故も起きるようになり、それらの予防策として街に歩道橋がかけられました。当時の歩道橋は安く早く造ることに主眼が置かれ、美観を無視したものばかりだったことから、それを嘆いた柳宗理は自らデザイン研究に取り掛かります。そして、2 年をかけた研究成果を、東京・松屋銀座のデザインギャラリーで開催した「歩道橋計画案展」（1968 年）とし発表しました。

今回は当時発表された歩道橋案と実際に建設された歩道橋作品の一部を本学寄託資料の写真パネルから抜粋して展示いたします。また、柳工業デザイン研究会が所蔵する 1968 年に展示に合わせて作成されたパンフレットを展示します。

本展を通じて、柳宗理の家具や食器等生活用品以外での幅広いデザイン活動の一端を市民のみなさまにご紹介するとともに、本学学生に対してはデザイン科を中心に柳宗理のデザインに取り組む姿勢や考え方を学ぶ機会となることを期待しております。

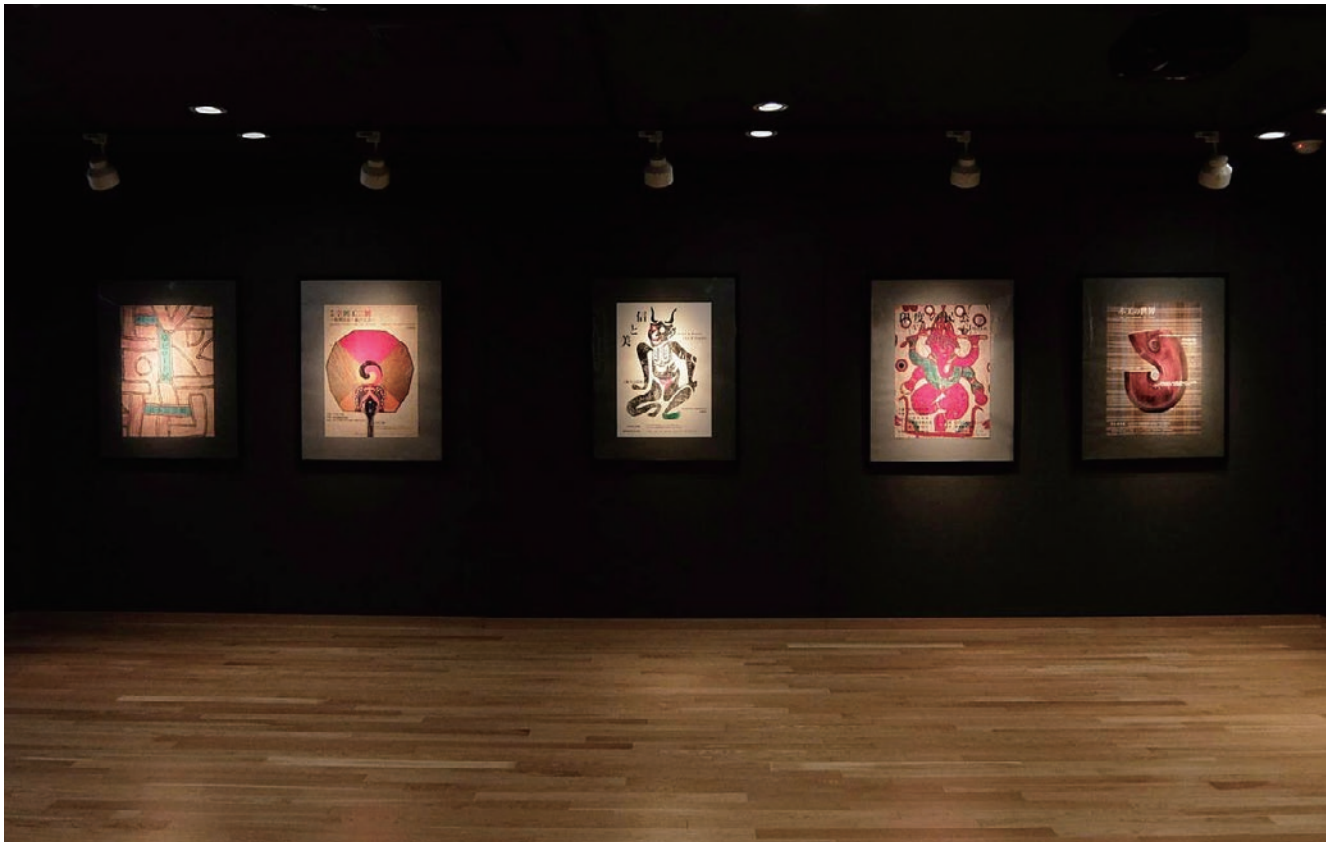
■展示構成

・歩道橋案、「歩道橋計画案展」会場写真パネル等、計 18 枚
・「歩道橋計画案」パンフレット、同複製、各 1 点

「柳宗理　日本民藝館ポスター展」

■会期：2015 年 7 月 10 日（金）～8 月 2 日（日）
　　9 時 30 分～ 17 時 00 分　休所日：月曜日
■会場：柳宗理記念デザイン研究所　展示資料室 2
■主催：金沢美術工芸大学　柳宗理記念デザイン研究所

■概要
　柳宗理が日本民藝館館長時代に手がけた展覧会ポスター作品を約 15 点展示します。また、7 月 10 日～ 12 日に日本民藝館主催の夏期学校が金沢で開催されます。このタイミングに合わせることで参加者や市民に向けて柳宗理と民藝の繋がりを再認識できる機会となることを期待しています。



「シャルロット・ペリアンのデザイン」

■会期：2015 年 10 月 6 日（火）～11 月 29 日（日）
■会場：柳宗理記念デザイン研究所　展示資料室 2
■主催：金沢美術工芸大学　柳宗理記念デザイン研究所

■概要

本展は柳宗理をデザインの世界へと導いたフランス人デザイナー、シャルロット・ペリアンの活動を紹介するものです。

シャルロット・ペリアン（Charlotte Perriand）は、1903 年にパリで生まれ、装飾芸術中央連盟付属学校（UCAD）を卒業した後、近代建築の父と言われる、ル・コルビュジェの下で、様々なモダンデザインの作品を生み出しました。1940 年、ペリアンは、かつて同じくコルビュジェの事務所で研鑽を積んでいた坂倉準三の推薦により、商工省貿易局顧問として日本に招へいされました。そして、各地の工業・工芸産地の視察、指導にあたり、柳宗理が随行しました。日本各地を巡り、ペリアンは伝統的な手工芸品・建築から多大なインスピレーションを受けます。1941 年にはそこからヒントを得て制作された家具、及び各地の手工芸品などを「選択　傳統　創造」展と題して発表しました。また、彼女の日本視察に同行した柳は、ペリアンからデザイン手法として「ワークショップ」を学びました。

本展ではペリアンの作品と日本文化との関連に重点をおきつつ、彼女のデザイン活動の概要を紹介するものです。ペリアンの来日時のノート、晩年のインタビューなど、貴重な資料によって、偉大なデザイナーの足跡を身近に感じることができます。

■構成

第 1 章：フランスでの仕事

シャルロット・ペリアンは 1903 年、パリに生まれた。パリの装飾芸術中央連盟付属学校（UCAD）卒業後は自立した創作活動を開始し、《屋根裏のバー》を製作、1927 年にコルビュジェ、ピエール・ジャンヌレの二人のアトリエに入り（～ 1937 年）、主にインテリアデザインを担当した。1928 年に発表された《シェーズ・ロング》は、ペリアンとコルビュジェの合作であり、現在も生産されている代表作である。

第 2 章　日本での活動

1940 年、ペリアンは坂倉準三の仲介で輸出工芸指導顧問として来日した。各地の視察には柳宗理が随行し、その際金沢にも来訪している。ペリアンが最も関心を寄せたのは各地の民藝品や伝統的な手工芸品であった。ペリアンは宗理の父、柳宗悦を介して河井寛次郎らと交友を結び、この視察により得た民藝品や手工芸品の技術、素材をモダンデザインの家具に取り入れ、1941 年に「選択　傳統　創造」展にこれらを出展した。

第 3 章：日本文化の紹介者

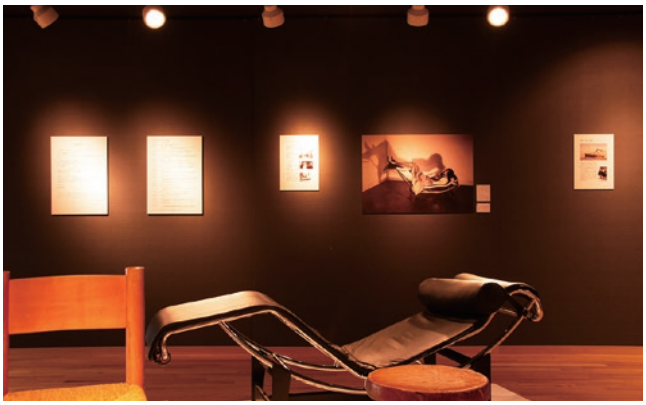
フランスに帰還したペリアンは、その後国内で日本文化紹介の活動を始める。その様子は『L’ Architecture d’ aujourd’ hui』をはじめとし、多数の雑誌に日本に関する論文を執筆したことからも窺える。また、1955 年にはル・コルビュジェ、フェルナン・レジェと共に東京髙島屋で三人展を組織し、彼女が日本の民藝・工芸品からインスピレーションを受けて制作されたデザインが展示された。

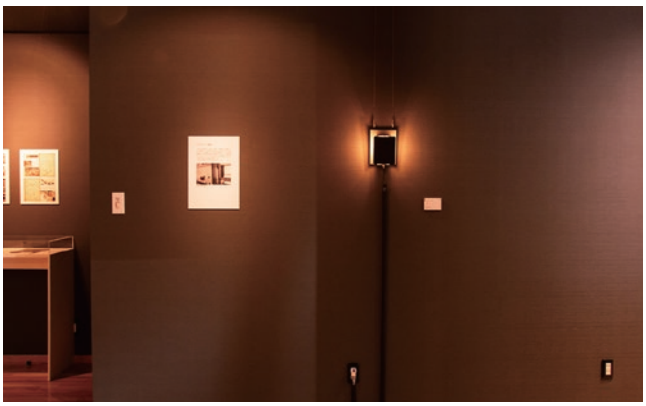
■講演会

①「デザイナーから見たシャルロット・ペリアン」
・場所：本研究所 2 F レクチャールーム
・日時：2015 年 10 月 18 日（日）　14：00 ～ 15：30
・講師：清水忠男（本学大学院専任教授）

②「成型合板の家具―柳宗理そしてペリアン」
・場所：本研究所 2 F レクチャールーム
・日時：2015 年 11 月 8 日（日）　14：00 ～ 15：30
・講師：菅澤光政（元天童木工技術開発部部長）

③「ペリアンにとっての日本」
・場所：本研究所 2 F レクチャールーム
・日時：2015 年 11 月 22 日（日）　14：00 ～ 15：30
・講師：森仁史（柳宗理記念デザイン研究所所長）





「カッセルの柳宗理」

－ドイツにおける活動 1960-1961－

■会期：2016 年 3 月 20(日)～5 月 15 日 (日)
　　休所日：月曜日　但し 3 月 21 日は開所
■会場：柳宗理記念デザイン研究所　展示資料室 2
■主催：金沢美術工芸大学 柳宗理記念デザイン研究所
■後援：北國新聞社

■概要

1960（昭和 35）年 10 月 5 日、柳宗理は羽田空港から旅立った。行き先はドイツ連邦共和国。ドイツ北部の都市カッセルに創設された国立デザイン工芸専門学校 (Staatliche Werkkunstschule Kassel) から年間講師として招聘されたのであった。柳はこの年、5 月に東京で開かれた世界デザイン会議の中心メンバーであったが、ここに招かれた同校学長ユップ・エルンストと面識を得たのが機縁となったようだ。本展はこの渡欧の経過と意味を森田力（富山大学名誉教授）氏の現地調査の成果に基づいて、初めて明らかにしようとするものである。

柳は在任中の 1961(昭和 36) 年 3 月にカッセルで「JAPAN　FORM」展を開催したことが森田氏の調査によって、初めて明らかになった。ここに柳は自身のデザイン作品に加えて、民芸品、伝統的日用品さらに現代日本の建築写真パネルなどを加えて展示を構成した。これらが混然一体となって展示されている様子は柳が自らのデザイン作品をどう位置づけようとしていたかが示されている。1960 年代初めに、柳が世界に向けて発信したかったこと、ドイツ人学生に伝えたかったことを、本展は初めて公にするのだが、ここから、その後貫かれる柳のデザインへの意志と、その表現を理解する重要な手がかりを見出すことができるに違いない。

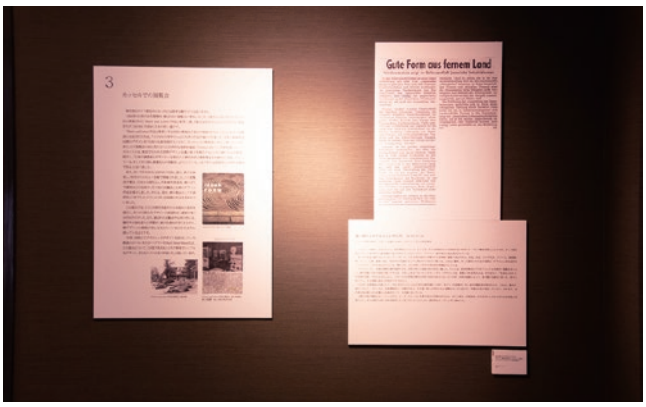
■講演会

・4 月 16 日（土）保井亜弓（本学教授）「戦後ドイツ美術におけるカッセル」
・4 月 23 日（土）坂本英之（本学教授）「戦後ドイツの工芸・デザイン教育―バウハウス以後」
・5 月 7 日（土）森仁史（本学講師）「日本デザインとドイツ―戦前と戦後」
・5 月 14 日（土）森田力（富山大学名誉教授）「私の柳宗理追跡―ドイツ現地調査から」

いずれも 13：00 より、参加無料・申込不要
会場：柳宗理記念デザイン研究所 2F レクチャールーム

カッセルの柳宗理
――ドイツにおける活動 1960-1961――
2016年3月20日(日)－5月15日(日)
会場　柳宗理記念デザイン研究所　展示資料室 2
〒920-0902　金沢市尾張町2-12-1　tel.076-201-8003
休所日　毎週月曜日　但し3月21日は開所
開所時間　9:30－17:00
入場料　無料
主催 金沢美術工芸大学 柳宗理記念デザイン研究所　後援 北國新聞社　特別協力 森田力(富山大学名誉教授)
金沢美術工芸大学
柳宗理記念デザイン研究所
YANAGI SORI DESIGN MEMORIAL

カッセルの柳宗理 ――ドイツにおける活動 1960-1961――
講演会
柳宗理記念デザイン研究所
金沢美術工芸大学
柳宗理記念デザイン研究所


Gute Form aus fernem Land

「柳宗理　暮らしとかたち展」

■会期　前期　～作品編～
2016 年 10 月 11 日（火）～ 11 月 6 日（日）
後期　～日用品編～
2016 年 11 月 8 日（火）～ 12 月 4 日（日）
■会場　柳宗理記念デザイン研究所　展示資料室 2
■主催　柳工業デザイン研究会
金沢美術工芸大学 柳宗理記念デザイン研究所
■後援　北國新聞社

■概要

1960 年代前半、高度経済成長に沸く日本では、人々の生活水準も向上し小妃ブームが起こる中、粗悪品や外国製品の模倣品も多く市場に出回っていました。そのような時代に、柳宗理は北國新聞夕刊コラム「暮らしとかたち」・「続暮らしとかたち」を連載します（1963 年～64 年）。柳は暮らしの様々な場面に目を向けて、自身のデザインした製品に限らず、日本の長い歴史から生まれたかたちや、当時の最新技術によるデザイン製品を 38 回にわたり紹介しました。身近にある美しいかたちに改めて目を向けること、心を豊かにする道具を生活に取り入れることを当時の読者に独自の表現で提言したのです。本展ではコラム「暮らしとかたち」「続暮らしとかたち」で取り上げたものの中から、柳自身がデザインした製品を紹介する［ 作品編 ］、その眼で選ばれた道具を紹介する［ 日用品編 ］と 2 回に分けて展示いたします。

■展示構成

作品編：エレファントスツール、セロハンテープホルダー、くずかご、ハカリ、ナイフやフォーク、ガラスコップ、灰ざら、テーブルの整理

日用品編：湯桶、ほうき、テーブルウェア、組み木、花ばさみとキリダシ、わんかご、たわしとブラシ、卓上コショウ入れ、花ばさみ、コーヒー入れ、セン抜き、インクつぼ

■講演会

・10 月 16 日（日）　佐藤和子（デザインジャーナリスト、本学非常勤講師）
・10 月 22 日（土）　西田善太（株式会社マガジンハウス「ブルータス」編集長）
・10 月 30 日（日）　ナガオカケンメイ（D&Department 代表、デザイン活動家）
・11 月 12 日（土）　テリー・エルス＆北村恵子（BEAMS ロンドンオフィスディレクター）

「柳宗理とイタリアデザイン」講師：佐藤 和子氏
2016 年10 月16 日（日）14:00～16:00

佐藤 和子
（デザイン・ジャーナリスト／金沢美術工芸大学非常勤講師）
1961 年　女子美術大学芸術学部図案科卒。
東京芸術大学図案専攻科入学。
伊政府招聘留学生としてブレラ美術大学（Milano）へ留学。
1980 年　ドムス誌（DOMUS）コラボレーター
「柳宗理：デザイナー1950 ～ 80 展」
ミラノ近代美術館　イタリア側責任者
1987 年　イタリア・ジャーナリスト協会メンバー（～現在）
2010 年　金沢美術工芸大学客員教授（～ 2015）
2011 年　女子美術大学客員教授
2013 年　「Italian Design Spirit by Kazuko Sato をデザインを学ぶ学生のために出版。
著書に『終わりなきイタリアデザイン・アルキミア』（六耀社）、『時に生きるイタリアデザイン』（三田出版会）等

金沢美術工芸大学開学 70 周年記念「柳宗理 暮らしとかたち」展 特別講演
「好奇心を人任せにしない ＿ブルータスの編集の現場から＿」
2016年10月22日（土）14：00～16：00／2Fレクチャールーム（入場無料・申込不要）

講師：西田 善太 氏
（株式会社マガジンハウス『ブルータス』編集長）

1963 年生まれ。早稲田大学卒業後、株式会社博報堂入社。
コピーライター職として、自動車、酒類、電機メーカーなどを担当する。
'91 年マガジンハウス入社。『ブルータス』を経て『ギンザ』と『カーサ ブルータス』の創刊に関わる。
カーサ ブルータスでは建築・デザインを担当。「柳宗理特集」「安藤忠雄 × 旅」「住宅案内」シリーズを生み出す。'07 年 12 月、ブルータス編集長就任。「居住空間学」シリーズをはじめ、旅、本、映画、食、ファッションで幅広くかつ独自の切り口で企画を切り拓く。

近作は「特集・松本隆」「太陽の音楽」「わざわざいきたくなるホテル」「釣来建築」「読書入門」「珍奇植物」とつづく。「マーケティングではわからない、興味の行き先を見つけたい。目指しているのは"ポップカルチャーの総合誌"です」。

「ロングライフデザイン」　講師：ナガオカ　ケンメイ氏
2016年10月30日（日）14：00～16：00

ナガオカ　ケンメイ
（D&DEPARTMENT 代表、デザイン活動家）

すでに世の中に生まれたロングライフデザインから、これからのデザインの在り方を探る活動のベースとして、47 の都道府県にデザインの道の駅「D&DEPARTMENT」を作り、息の長いその土地らしいデザインの発掘、紹介を行っている。企業の「らしさ」の原点ともいえる商品を復刻し、再販売する「60VISION」や、日本の長く続いている伝統工芸や生活用品を展覧会形式で紹介する「NIPPON VISION」を展開。2009 年より旅行文化誌『d design travel』を刊行。2012 年より東京渋谷で日本初の地域デザインミュージアム「d47 MUSEUM」を発案、運営。

2013 年毎日デザイン賞受賞。武蔵野美術大学客員教授、京都造形芸術大学教授。

金沢美術工芸大学開学70周年記念「柳宗理 暮らしとかたち」展 特別講演

「BEAMS fennica ～柳宗理との出会いからこれまで～」

2016年11月12日（土）14：00～16：00／2Fレクチャールーム（入場無料・申込不要）

講師：テリー・エリス氏 & 北村恵子氏
（BEAMS ロンドンオフィスディレクター）

1986年より BEAMS ロンドンオフィスとして、バイイングを担当。《Emilio Pucci》、《John Galliano》、《Helmut Lang》、《Goyard》などのブランドを、ファッションのトップトレンドをさらに越える審美眼で日本に初めて紹介したのは、他でもないこのふたりである。1995年に「BEAMS MODERN LIVING」をスタート。《Artek》や《Bruno Mathsson》、《Hans J. Wegner》、《Marimekko》などの北欧ものを中心に、柳宗理の名品バタフライスツールなども展開し、現在の日本のインテリアブームの先駆けとなった。

2003年からは"デザインとクラフトの橋渡し"をテーマにしたレーベル「fennica」を開始。クラフト感溢れるウエアや、日本独自の手仕事によるアイテムなどを取り戯っている。2008年に初の書籍「Fennica style book」を発売。2016年夏にふたりのこれまでの取り組み、手しごとへの想いが詰まった書籍「BEAMS<fennica>ニッポン最高の手しごと」を発売。

＜作品編＞

＜日用品編＞

「1955・産業美術・発進」

－金沢美術工芸大学のデザイン教育－

■会期　2017 年 3 月 7 日（火）～ 5 月 14 日（日）
■会場　柳宗理記念デザイン研究所　展示資料室 2
■主催　金沢美術工芸大学 柳宗理記念デザイン研究所
■後援　北國新聞社

■概要

1955 年（昭和 30）、金沢に美術工芸大学が生まれました。戦後いち早く 1946 年に美術工芸専門学校、1950 年に短期大学となった学校が新制大学の仲間入りをしたのです。それまでの美術科と工芸科から成っていた学校はこのとき、美術学科と産業美術学科に大きく衣替えしました。戦後日本が国を挙げての産業化へと舵を切る中、現在で言うデザインにあたる産業美術をかかげたこの再編は、地域に貢献するデザイナーを育てるという産業界の要請にこたえるものでした。金沢が擁する繊維産業、陶磁器産業はまだ輸出の花形産業であり、日本の戦後復興の牽引者でしたから、地元の産業に貢献する教育機関は金沢市にとっても重要だったのです。

産業美術学科の新設にあたって講師として招かれたのが、当時デザイナーとして第一線で活躍していた柳宗理（1915-2011）や大智浩（1908-1974）でした。彼らのもとからは多くの優秀な卒業生が巣立ち、日本の高度経済成長以降のデザインを支えていきます。この先見性と社会に貢献する姿勢は、職員や学生を鼓舞しましたし、またその活動によって金沢美術工芸大学の声価をより一層高めることができたと言えるでしょう。

本展はこの大学創成期のデザイン教育に焦点を当てて、1950 年代の教育活動を同時代のデザイン活動と合わせてご紹介しようとするものです。この時代のデザイン関係者の熱い思いとそれを見守った金沢市民の温かいまなざしから、今一度デザインのあるべき姿を思い起こしていただければ幸いです。

■展示構成

1．金沢美術工芸大学の誕生
　・設立経緯・教員紹介・教員作品・施設
2．産業美術教育の発進
　・カリキュラム・卒業制作展・実践・蔵書
3．1950 年代のデザイン・デザイン作品・資料

■主要な展示作品

1．森田亀之助ポートレート 1959、設置認可通知、大学平面図、教員作品パネル
2．鴨居玲「赤煉瓦」創刊号 1949、「ル・コルビュジェ作品集」1953「グッドデザイン」1958
3．柳宗理《バタフライスツール》1954、《クリーマー》1948（1950’s）、《白磁土瓶》1956（1980’s）、イサム・ノグチ《あかり》1952、渡辺力《ひも椅子》1953、真野善一《ラジオ DX-350》1953、剣持勇《スタッキングスツール》1959（個人蔵）、亀倉雄策《六年間の記録》1952、河野鷹思《商業デザイン全集》1951、伊藤憲治《婦人朝日》1951（個人蔵）ほか

■講演会

・4 月 8 日（土）「金沢美大と日本デザイン　1950 年代に始まるサクセスストーリー」森　仁史（柳宗理記念デザイン研究所　シニア・ディレクター）
・4 月 22 日（土）「日本デザインの拓いた世界　1960-70 年代への継承と国際化への進展」清水忠男（本学大学院専任教授）

1955・
産業美術・発進
—金沢美術工芸大学のデザイン教育—
2017年3月7日（火）～5月14日（日）
会場　柳宗理記念デザイン研究所　展示資料室2
〒920-0902　金沢市尾張町2-12-1
Tel.076-201-8003
休所日　毎週月曜日（但し3月20日は開所）
開所時間　9:30-17:00
入場料　無料
主催　金沢美術工芸大学　柳宗理記念デザイン研究所
後援　北國新聞社
金沢美術工芸大学
柳宗理記念デザイン研究所
YANAGI SORI DESIGN MEMORIAL

1955年（昭和30）、金沢に美術工芸大学が生まれました。戦後いち早く1946年に設置された美術工芸専門学校が、1950年の短期大学を経て、新制大学の仲間入りをしたのです。
それまで美術科と工芸科から成っていた学校はこのとき、美術学科と産業美術学科に大きく衣替えしました。戦後日本が国を挙げての産業化へと舵を切るなか、現在でいうデザインにあたる産業美術をかかげたこの再編は、地域に貢献するデザイナーを育てるという産業界の要請にこたえるものでした。金沢が誇る繊維産業、陶磁器産業はまだ輸出の花形産業であり、日本の戦後復興の牽引者でしたから、地元の産業に貢献する教育機関は金沢市にとっても重要だったのです。
産業美術学科の新設にあたって講師として招かれたのが、当時デザイナーとして第一線で活躍していた柳宗理（1915-2011）や大智浩（1908-1974）でした。彼らのもとからは多くの優秀な卒業生が巣立ち、日本の高度経済成長以降のデザインを支えていきます。この先見性と社会に貢献する姿勢は職員や学生を鼓舞しましたし、またその活動によって金沢美術工芸大学の声価をより一層高めることができたといえるでしょう。
本展はこうした大学創成期のデザイン教育に焦点を当てて、1950年代の教育活動を同時代のデザイン活動と合わせてご紹介しようとするものです。この時代のデザイン関係者の熱い思いとそれを見守った金沢市民の温かいまなざしから、今一度デザインのあるべき姿を思い起こしていただければ幸いです。
ポスターのデザイン…
POSTER DESIGN
1955・
産業美術・発進
—金沢美術工芸大学のデザイン教育—
■講演会
4月8日（土）　森　仁史（柳宗理記念デザイン研究所シニア・ディレクター）
「金沢美大と日本デザイン—1950年代に始まるサクセスストーリー」
4月22日（土）　清水忠男（金沢美術工芸大学大学院専任教授）
「日本デザインの拓いた世界：1960—70年代への継承と国際化への進展」
いずれも13:00より　参加無料・申込不要
会場：柳宗理記念デザイン研究所 2Fレクチャールーム
■学芸員による展示解説
4月16日（日）、4月23日（日）、5月7日（日）　いずれも14:00より
金沢美術工芸大学
柳宗理記念デザイン研究所
〒920-0902 金沢市尾張町2-12-1　TEL:076-201-8003　FAX:076-201-8004　URL:http://www.kanazawa-bidai.ac.jp/www/contents/yanagisori/index.html

「柳宗理　バタフライスツール60周年記念企画展」

BUTTERFLY STOOL 60th

■会期：2017 年 6 月 6 日（火）～7 月 17 日（月・祝）
■会場：柳宗理記念デザイン研究所　展示資料室２
■主催：金沢美術工芸大学 柳宗理記念デザイン研究所、
　　柳工業デザイン研究会
■後援：Casa BRUTUS、インテリア産業協会、
　　日本インテリアデザイナー協会
■協力：栃木県立美術館、Vitra
■特別協力：天童木工、ケイズデザインラボ

■概要

柳宗理デザインの「バタフライスツール」は、2016 年に 60 周年を迎えました。1956 年第一回柳工業デザイン研究会展（松屋銀座）で発表されて以来、多くの人々を魅了し続けてきたこの椅子は、世界の家具史においてもアイコン的存在となり、ニューヨーク近代美術館（MoMA）やルーブル美術館など各地の美術館にも収蔵されています。

「バタフライスツール」の印象的で軽やかなフォルムは、手遊びのように紙を折り曲げる中でうまれました。柳はこのかたちを椅子として実現させるため、仙台の産業工芸試験所で成形合板の研究をしていた乾三郎氏のもとを訪ねます。乾氏の協力で、当時の企業として日本で初めて成形合板を実用化した天童木工と研究・開発を行うことになり、数年の試行錯誤を経て 1956 年の発表を迎えました。「デザインはひとりでするものではない」という柳の言葉に現れるように「バタフライスツール」はデザイナーとメーカーの協働によって完成したのです。

本展では、発表当時のオリジナルを含む様々な「バタフライスツール」を展示し、その 60 年の歩みを振り返るとともに、成形合板技術についてもご紹介いたします。

■展示構成

１．バタフライスツール製造工程（映像有り）
２．各年代のバタフライスツール
３．バタフライスツール／天童木工／国内外のプライウッド作品等の年表
４．産業工芸試験所と乾三郎について
５．柳宗理のプライウッドチェア、国内外のプライウッドチェアの紹介

■主要な展示作品

1956 年発表時のバタフライスツール、アクリル製バタフライスツール、バタフライスツール旧大（1965 年）、バタフライスツール新大（1992 年）、Vitra 版バタフライスツール、バタフライスツール（現行）

■講演会

・7 月 8 日（土）14：00～
　柳宗理記念デザイン研究所２F レクチャールーム
　講師：清水慶太（デザイナー）
・その他、主催者･関係者による会場でのギャラリートークを予定。（日時未定）

■成形合板と天童木工

「成形合板」とは、丸太をカツラ剥きのように薄くスライスした材料を使い、接着剤を塗布してから重ね合わせて型に入れ、圧力と熱を加えてさまざまな形に成形する技術です。繊細なデザインと十分な強度を併せ持った木製品をつくることができます。

日本では、山形県にある天童木工が戦後まもなく実用化し、多くの建築家やデザイナーたちのイメージを具現化してきました。それらの多くは名作として現在でも称えられ、バタフライスツールはその代表として世界中で知られています。

BUTTERFLY
STOOL
60th anniversary exhibition
6 June - 17 July 2017

BUTTERFLY
STOOL
60th anniversary exhibition
柳宗理記念デザイン研究所

BUTTERFLY
STOOL
60th History
1954 産業工芸試験所を訪問
1956 第一回 柳工業デザイン研究会展（松屋銀座）にてバタフライスツールを発表
1958 形状の変更
Introduction to plywood chair

1965 大型サイズを開発
1970 アクリルバージョンの販売
1982 大型サイズを改めて開発
1995 ボンベダルフ社からの依頼
2016 60周年
2002 ヴィトラ社での製造・販売

「柳宗理と松村硬質陶器展」

－戦後日本のテーブルウェア－

■会期：2018 年 3 月 6 日（火）～5 月 13 日（日）
■会場：柳宗理記念デザイン研究所　展示資料室 2
■主催：金沢美術工芸大学 柳宗理記念デザイン研究所、
　　柳工業デザイン研究会
■会場構成：柳工業デザイン研究会

■概要

第二次世界大戦後の日本を代表する工業デザイナーとして活躍した柳宗理が終戦後にはじめて手がけたのは、白い陶器のデザインでした。戦前から輸出用陶磁器の生産地として名高かった名古屋の松村硬質陶器と手を組み、1948 年頃に《松村硬質陶器初期型シリーズ》が完成します。中でも《コーヒーセット》は 1949 年の第 1 回産業意匠展で優秀賞を受賞するなど、製陶工場との協働から生み出された清新なデザインが高く評価されました。また、同時期には《KIKYO》と名付けられた植物模様の入ったシリーズも作られています。
初期型シリーズの完成後も、柳は松村硬質陶器で新型の《N 型シリーズ》等をデザインしました。これらの流通には、終戦直後から柳をマネージャーのように支えた鹿子木健日子の経営する「茜商会」が関わり、1950 年代になると、日本が戦後復興を遂げる中で隆盛したグッドデザイン運動を追い風に、百貨店のデザインコーナーや頒布会を通じて広く人々の生活にも浸透していきました。1990 年にはニッコーの《ボーンチャイナ・シリーズ》として復刻され、戦後日本のテーブルウェアを代表する製品として今もなお愛されています。

本展では柳宗理の処女作である松村硬質陶器シリーズについて、これまで詳細が判明していなかった戦後初期の製品ラインナップやデザインの変遷に関する情報を整理するとともに、戦後の日本におけるテーブルウェアの発展と柳の工業デザイナーとしての第一歩とを重ね合わせて、その意義をご紹介します。

■ギャラリートーク
・3 月 31 日（土）14：00～
　柳宗理記念デザイン研究所 2 F レクチャールーム
　講師：南有里子（柳宗理記念デザイン研究所学芸員）
・4 月 14 日（土）14：00～
・4 月 28 日（土）14：00～
　会場：柳宗理記念デザイン研究所
　学芸員による展示解説
　申込不要・入場無料
■講演会
・4 月 28 日（土）14：30～16：00
　講師：磯谷慶子（駒沢女子大学教授）
　テーマ「今、陶磁器デザインがおもしろい」

■関連イベント

講演会
日　時：4 月 28 日（土）14：30－16：00
講　師：磯谷慶子氏（駒沢女子大学教授）
テーマ：「今、陶磁器デザインがおもしろい！」

磯谷氏の柳工業デザイン研究会在籍時のご経験や、ご自身の陶磁器デザインの仕事から、身につける陶磁器、食事に使う陶磁器など、陶磁器デザインのおもしろさや、デザイン発想のヒントとなるようなお話を伺います。

磯谷 慶子
武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業。柳宗理に師事し（財）柳工業デザイン研究会にて東名足柄斜張橋やテーブルウエアのデザインを手掛ける。その後独立し、陶磁器のボタンやアクセサリー、花器、テーブルウエア等制作。ボタンは、パリコレ、ハナエモリコレクションに出品。個展多数。

第二次世界大戦後の日本を代表する工業デザイナーとして活躍した柳宗理が終戦後にはじめて手がけたのは、白い陶器のデザインでした。戦前から輸出用陶磁器の生産地として名高かった名古屋の松村硬質陶器と手を組み、1948年頃に《松村硬質陶器初期型シリーズ》が完成します。中でも《コーヒーセット》は1949年の第1回産業意匠展で優秀賞を受賞するなど、製陶工場との協働から生み出された清新なデザインが高く評価されました。また、同時期には《KIKYO》と名付けられた植物模様の入ったシリーズも作られています。

初期型シリーズの完成後も、柳は松村硬質陶器で新型の《N型シリーズ》等をデザインしました。これらの流通には、終戦直後から柳をマネージャーのように支えた高子木健日子の経営する「西商会」が関わり、1950年代になると、日本が戦後復興を遂げる中で隆盛したグッドデザイン運動を追い風に、百貨店のデザインコーナーや頒布会を通じて広く人々の生活にも浸透していきました。1990年にはニッコーの《ボーンチャイナ・シリーズ》として復刻され、戦後日本のテーブルウェアを代表する製品として今もなお愛されています。

本展では柳宗理の処女作である松村硬質陶器シリーズについて、これまで詳細が判明していなかった戦後初期の製品ラインナップやデザインの変遷に関する情報を整理するとともに、戦後の日本におけるテーブルウェアの発展と柳の工業デザイナーとしての第一歩とを重ね合わせて、その意義をご紹介します。

柳宗理　1915－2011
インダストリアルデザイナー。家具やキッチンツールなどの生活用品から大型公共構造物まで手がけ、東京・札幌のオリンピックデザインにも参加した。1977年より約30年にわたり日本民藝館長を務めた。また、金沢美術工芸大学では50年以上にわたり教鞭をとる。2002年文化功労者として顕彰される。

1. 松村硬質陶器初期型シリーズ「ティーポット」1948年頃　2. 同 KIKYO シリーズ「梅竹鳥」1948年頃　3. 同 N 型シリーズ「コーヒーカップ」1952年頃　4. 同 N 型シリーズ「サラダボウル」1952年頃
表紙：同 N 型シリーズ「ティーポット」「水差し」1952年頃

【ギャラリートーク
日時：3月31日（土）14:00－
南有里子（柳宗理記念デザイン研究所学芸員）「柳宗理と松村硬質陶器」

【学芸員による展示解説
日時：4月14日（土）、28日（土）いずれも14:00－

会場：柳宗理記念デザイン研究所／申込不要・入場無料

柳宗理と松村硬質陶器展　・戦後日本のテーブルウェア・
会期：2018年3月6日（火）－5月13日（日）　9:30－17:00
休館日：月曜日（祝し祝日は開館）　入場無料
主催：金沢美術工芸大学柳宗理記念デザイン研究所、柳工業デザイン研究会
会場：金沢美術工芸大学柳宗理記念デザイン研究所　展示資料室2
所在地：石川県金沢市尾張町2－12－1　TEL：076-231-8003

アクセス：
ふらっとバス：JR金沢駅西口（乗り口）3番・金沢ふらっとバス「元江ルート」金ケ崎端 下車徒歩3分
北鉄バス：JR金沢駅西口（乗り口）3番・城下まち金沢周遊バス北回り線停車（金城橋前）下車徒歩3分
出鉄・JR野町駅前バス停・城下まち金沢周遊バス北回り線停車（金城橋前）下車徒歩3分

「技術とかたち　－柳宗理の木工家具－　曲木」

■会期：2019 年 3 月 29 日（金）～5 月 26 日（日）
■会場：柳宗理記念デザイン研究所　展示資料室 2
■主催：金沢美術工芸大学 柳宗理記念デザイン研究所
■協力：柳工業デザイン研究会

■概要

柳宗理はその生涯にわたり様々な分野で独創的なデザインを展開しました。その中でも椅子やテーブルをはじめとする木工家具のデザインは、柳が最も力を注いだ仕事のひとつでした。

本展は、柳宗理の木工家具における「技術とかたち」をテーマに、前編・後編の 2 回シリーズとして開催する展覧会です。前編となる本年度は「曲木（まげき）」に焦点を当て、曲木技術の開発や洋家具の日本への導入、そして日本の家具デザインの黎明期について紹介します。さらに、秋田木工から発表された柳宗理の曲木家具や、天童木工版・BC 工房版・飛騨産業版と変遷を辿ったダイニングチェアおよびアームチェアの全体像を、曲木家具の製造技術と併せて展示いたします。家具メーカーの「技術」、そしてデザイナー柳宗理との協働によってうまれた「かたち」を実感していただければ幸いです。

■ギャラリートーク
・3 月 30 日（土）14：00 ～
柳宗理記念デザイン研究所 2 F レクチャールーム
講師：原 恵理子（柳宗理記念デザイン研究所学芸員）
テーマ「技術とかかち　柳宗理の曲木家具」

■講演会
・4 月 27 日（土）14：00 ～
柳宗理記念デザイン研究所 2 F レクチャールーム
講師：中川輝彦（飛騨産業株式会社デザイン室室長）
テーマ「飛騨の家具づくり・技とデザイン」
・5 月 18 日（土）14：00 ～
柳宗理記念デザイン研究所 2 F レクチャールーム
講師：新井竜治（芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科特任教授、九州大学総合研究博物館専門研究員）
テーマ「歴史的家具の救出・研究・活用」

■展示解説
・4 月 13 日（土）　14：00～14：30
・5 月 25 日（土）　14：00～14：30
柳宗理記念デザイン研究所 1F 展示資料室 2
申込不要・参加無料

技術とかたち －柳宗理の木工家具－　曲木

柳宗理はその生涯にわたり様々な分野で独創的なデザインを展開しました。その中でも椅子やテーブルをはじめとする木工家具のデザインは、柳が最も力を注いだ仕事のひとつでした。

本展は、柳宗理の木工家具における「技術とかたち」をテーマに、前編・後編の2回シリーズとして開催する展覧会です。前編となる本年度は「曲木」に焦点を当て、曲木技術の開発や洋家具の日本への導入、そして日本の家具デザインの黎明期について紹介します。さらに、秋田木工から発表された柳宗理の曲木家具や、天童木工版・B.C工房版・飛騨産業版と変遷を辿ったダイニングチェアおよびプームチェアの全体像を、曲木家具の製造技術と併せて展示いたします。家具メーカーの「技術」、そしてデザイナー柳宗理との協働によってうまれた「かたち」を実感していただければ幸いです。

柳 宗理　1915 - 2011

戦後日本を代表するインダストリアルデザイナー。家具やキッチンウェアをはじめとする生活用品からグラフィック、さらに大型公共構造物に至るまで幅広いデザインを手がけ、東京・札幌オリンピックのプロジェクトにも参加した。金沢美術工芸大学では約50年にわたり教鞭をとった。

1. 柳テーブル 秋田木工株式会社 1957年　2. 柳木椅子 秋田木工株式会社 1957年　3. アームチェア 天童木工株式会社 1970年　4. ダイニングチェア 天童木工株式会社 1972年
参考：『柳宗理デザイン』美術出版社（イリアス文化会館ホール 1982年6月17日-24日）

講演会　会場：柳宗理記念デザイン研究所 2F レクチャールーム　【申込不要・参加無料】

「飛騨の家具づくり・技とデザイン」
日時：2019年4月27日（土）14:00～
講師：中川 輝彦（飛騨産業株式会社デザイン室室長）

「歴史的家具の発出・研究・活用」
日時：2019年5月18日（土）14:00～
講師：新井 竜治（芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科特任教授、九州大学総合研究博物館専門研究員）

ギャラリートーク　会場：柳宗理記念デザイン研究所 2F レクチャールーム　【申込不要・参加無料】

「技術とかたち 柳宗理の曲木家具」
日時：2019年3月30日（土）14:00～
講師：原 恵理子（金沢美術工芸大学柳宗理記念デザイン研究所学芸員）

展示解説　【申込不要・参加無料】
日時：2019年4月13日（土）-5月25日（土）　いずれも14:00～（30分程度）

金沢美術工芸大学
柳宗理記念デザイン研究所
〒920-0902 石川県金沢市昭和町2-12-1　TEL：076-201-8003
URL：http://www.kanazawa-bidai.ac.jp/yanagi/

アクセス　金沢バス：JR金沢駅東口3番バスのりばから
○昭和町（金城高校）下車徒歩3分
広坂・21世紀美術館バス停から
○城下町金沢周遊バス 20分
○柳橋町（金城高校）近い下車徒歩3分

「展示品リスト」

(1)展示資料室 1(常設展示)

柳作品による再現的展示。主として現行製品によって構成。作品選択及びレイアウトは柳工業デザイン研究会が担当した。

Sec.1

品　　名	制作者
徳利　小	因州中井窯
中青皿	因州中井窯
中白皿	因州中井窯
角皿（白）	出西窯
角皿（黒）	出西窯
黒柄カトラリー　コーヒースプーン	佐藤商事
黒柄カトラリー　シュガーレードル	佐藤商事
黒柄カトラリー　デザートスプーン	佐藤商事
黒柄カトラリー　デザートナイフ	佐藤商事
黒柄カトラリー　デザートフォーク	佐藤商事
ステンレスカトラリー　シュガーレードル	佐藤商事
ステンレスカトラリー　ティースプーン	佐藤商事
ステンレスカトラリー　テーブルスプーン	佐藤商事
ステンレスカトラリー　テーブルナイフ	佐藤商事
ステンレスカトラリー　テーブルフォーク	佐藤商事
ステンレスカトラリー　バターナイフ	佐藤商事
セラミック白黒　角型プレート　L（白）	佐藤商事
セラミック白黒　角型プレート　L（黒）	佐藤商事
セラミック白黒　コーヒーカップ・ソーサー(白)	佐藤商事
セラミック白黒　コーヒーカップ・ソーサー(黒)	佐藤商事
セラミック白黒　シュガーポット（黒）	佐藤商事
セラミック白黒　ティーポット（黒）	佐藤商事
セラミック白黒　ボール　大（白）	佐藤商事
セラミック白黒　ボール　大（黒）	佐藤商事
セラミック白黒　ミルクピッチャー（黒）	佐藤商事
底上げグラス　6oz	佐藤商事
和食器　ぐい飲み　大　外紋	佐藤商事
ビールジョッキ（シロマット）	佐藤商事
ビールジョッキ（クロマット）	佐藤商事
ワイングラス　5oz	佐藤商事
サイドデスク	天童木工
シェルチェア	天童木工
スタッキングチェア（サペリ色）	天童木工
ダイニング・テーブル（サペリ色）	天童木工
鳥籠	山川ラタン
「STD バスボード」カタログ表紙	山下システムズ
FINE BORN CHINA　クリーマー	NIKKO
FINE BORN CHINA　コーヒーカップ・ソーサー	NIKKO
FINE BORN CHINA　シュガー	NIKKO
FINE BORN CHINA　ティーポット	NIKKO
FINE BORN CHINA　プレート　23㎝	NIKKO
FINE BORN CHINA　ボール　15㎝	NIKKO
エレファント・スツール（白）	Vitra Design Museum
エレファント・スツール（黒）	Vitra Design Museum
亀車	鳴子高亀
こけし人形　男女	鳴子高亀
鳩笛	鳴子高亀
雑誌『民藝』パネル	
日本民藝館ポスター	
ファブリック　カーテン　「エダ」	
ファブリック　ランチョンマット バーコード（緑）	
和紙ペンダント照明　トリプルタイプ	
BOX 棚・大	

Sec.2

品　　名	制作者
醤油挿し	天草高浜焼
白磁小皿	天草高浜焼
南部鉄器シリーズ　鉄鍋（浅型 22㎝）	佐藤商事
清酒グラス	佐々木硝子
黒土瓶	出西窯
徳利（黒）	出西窯
丸鉢　小（白）	出西窯
丸鉢　小（黒）	出西窯
丸皿　小（白）	出西窯
丸皿　小（黒）	出西窯
飯碗（白）	出西窯
飯碗（黒）	出西窯
湯呑	出西窯
バタフライ・スツール（ローズウッド）	天童木工
アームチェア	飛騨産業
ダイニングチェア	飛騨産業

ダイニングテーブル	飛騨産業
ファブリック　カーテン（コノハ）	
ファブリック　ランチョンマット バーコード（茶色）	
日本民藝館ポスター	
和紙ペンダント照明　シングルタイプ	

Sec.3

品　　名	制作者
コフの缶切り	小坂刃物
泡立て	佐藤商事
キッチンツール　スキンマー	佐藤商事
キッチンツール　スキンマー（S）	佐藤商事
キッチンツール　ターナー（S）	佐藤商事
キッチンツール　バタービーター	佐藤商事
キッチンツール　フォークレードル	佐藤商事
キッチンツール　レードル L	佐藤商事
キッチンツール　レードル M	佐藤商事
キッチンツール　レードル（S）	佐藤商事
ケトル（つや消し）	佐藤商事
ステンレス片手鍋　18㎝	佐藤商事
ステンレスサービススプーン	佐藤商事
ステンレスサービスフォーク	佐藤商事
ステンレストング　穴あき	佐藤商事
ステンレスパスタパン　22㎝	佐藤商事
ステンレスプレート　25㎝	佐藤商事
ステンレスボール　27㎝	佐藤商事
ステンレスボール　23㎝	佐藤商事
ステンレスボール　19cm	佐藤商事
ステンレスボール　16cm	佐藤商事
ステンレスボール　13㎝	佐藤商事
ステンレスミルクパン　つや消し	佐藤商事
ステンレス両手鍋（浅型）　22㎝蓋無	佐藤商事
鉄フライパン　25㎝　ふた付き	佐藤商事
鉄フライパン　22㎝	佐藤商事
鉄フライパン　18㎝	佐藤商事
南部鉄器シリーズ　グリルパン　22㎝蓋付	佐藤商事
パンチングストレーナー　取手付　23㎝	佐藤商事
パンチングストレーナー　取手付　19㎝	佐藤商事
パンチングストレーナー　取手付　16㎝	佐藤商事
パンチングストレーナー　19㎝	佐藤商事
パンチングストレーナー　16㎝	佐藤商事
シンク・トップ	サンウェーブ工業

Sec.4

品　　名	制作者
曲木鏡　小判　大（木地色）	秋田木工
白磁土瓶	天草高浜焼
白磁湯呑	天草高浜焼
染分皿　6.5 寸	因州中井窯
徳利・中	因州中井窯
ウッド丸プレート　小	佐藤商事
角付タンブラー	佐藤商事
角付ピッチャー	佐藤商事
勉強机	白崎木工
スタッキングチェア（サペリ色）	天童木工
紋次郎スツール	飛騨産業
紋次郎丸ティーテーブル	飛騨産業
BOX 棚・小	飛騨産業
「STD バスボード」カタログ表紙	山下システムズ

(2)その他

品　　名	制作者
自動ドア・ステッカー	寺岡オートドア
バタフライスツール・メープル	天童木工
「STD バスボード」カタログ表紙	山下システムズ
曲木鏡　丸　小（古代色）	秋田木工
雑誌『民藝』	
曲木鏡　丸　大（木地色）	秋田木工
洗面台	TOTO
雑誌『民藝』パネル	
トイレサイン	

「所蔵品リスト」

本目録に収録したのは、本研究所開設以前に本学製品デザイン専攻が収集した柳宗理デザイン作品と本研究所開設後に収集した資料と作品である。前者は平成25年度の柳宗理調査研究事業の一環として整理され、本研究所開設後に本研究所へ移管された。

1 移 管

• 家 具

名　　称	制作者	材　質	制作年	個数	寸　　法（cm）
曲木鏡 小判（小）（古代色）	秋田木工	ブナ、ガラス	1975	1	縦 50.0、横 39.8、高 3.0
曲木鏡 小判（小）（木地色）	秋田木工	ブナ、ガラス	1975	1	縦 50.0、横 39.8、高 3.0
曲木鏡 丸（小）（古代色）	秋田木工	ブナ、ガラス	1975	1	直径 39.6
曲木鏡 丸（小）（木地色）	秋田木工	ブナ、ガラス	1975	1	直径 39.6
曲木鏡 丸（大）（古代色）	秋田木工	ブナ、ガラス	1975	1	直径 61.5
曲木鏡 丸（大）（木地色）	秋田木工	ブナ、ガラス	1975	1	直径 61.5
曲木鏡 小判（大）（古代色）	秋田木工	ブナ、ガラス	1975	1	縦 75.5、横 60.0
曲木鏡 小判（大）（木地色）	秋田木工	ブナ、ガラス	1975	1	縦 75.5、横 60.0
ファブリック　バーコード　緑	柳ショップ	綿	1999	1	縦 112.0、横 213.5
バタフライ・スツール　S-0521	天童木工	ローズウッド、真鍮	1956	1	幅 41.3、奥行 31.1、高 40.0
スタッキング・チェア	秋田木工	ブナ、籐	1967	1	幅 55.5、奥行 56.8、座面 43.1
アームチェア	天童木工	マコレ	1978	1	幅 55.9、奥行 56.0、高 69.5、座面 43.2
棚	大谷産業	ナラ、アルミニウム	2000	1	奥行 29.5、幅 126.0、高 142.0、脚 16.2
デスク	柳ショップ	合板	1997	1	幅 120.0、奥行 54.8、高 71.8
ダイニングテーブル	柳ショップ	合板	1997	1	幅 154.2、奥行 89.8、高 70.0
シェルチェアー　T-3036	天童木工	サベリ、ステンレス	1998	1	幅 44.3、奥行 51.0、高 76.6、座面 42.8
チェアー　T-3035	天童木工	ホワイトアッシュ	1998	4	幅 49.0、奥行 41.1、高 69.2、座面 43.5
安楽柳椅子	BC 工房		1997	1	幅 60.3、奥行 51.0、高 64.0、座面 36.6
こぶり柳三角椅子（布）	BC 工房	ナラ、布	1997	1	幅 35.0、高 35.0
柳三角スツール　背付き（布）（ハイ）	BC 工房	ナラ、布	1997	1	幅 35.0、高 76.3
柳三角スツール　背付き（布）（ミドル）	BC 工房	ナラ、布	1997	1	幅 35.0、高 49.3
柳三角スツール　背付き（布）（ロー）	BC 工房	ナラ、布	1997	1	幅 35.0、高 49.3
柳三角スツール（布）（ロー）	BC 工房	ナラ、布	1997	1	幅 35.0、高 35.0
柳三角スツール（布）（ミドル）	BC 工房	ナラ、布	1997	1	幅 35.0、高さ 42.0
柳三角スツール（布）（ハイ）	BC 工房	ナラ、布	1997	1	幅 35.0、高 62.3
三角テーブル（ハイタイプ／チーク）	BC 工房	チーク、鉄	1997	1	幅 42.8、高 85.0
三角ティーテーブル（漆タイプ）	BC 工房	チーク、鉄	1997	1	幅 86.0、高 39.3

• 調理器

名　　称	制作者	材　　質	制作年	個数	寸　　法（㎝）
TEKKI　フライパン	佐藤商事、日本洋食器	本体・鉄、 蓋・ステンレス	1999	1	本体（横 17.8、縦 24.6、深さ 2.3、 底裏口径 13.6）、 蓋（横 17.5、口径 15.1）
ステンレス　両手鍋　浅型 22cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、 プラスチック		1	口径 22.0、高 15.5
ステンレス　ヤカン （つや消し）	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1994	1	口径 13.5、高（取手なし）13.6、 高（取っ手含）21.0、 底裏口径 16.5、底厚 0.7
ステンレス　ミルクパン （つや消し）16cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、 プラスチック	2000	1	高 7.2、底厚 1.0
ステンレス・アルミ三層鋼 片手鍋　18cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、 プラスチック	1999	1	口径 18.0、高 11.2
ステンレス　片手鍋 18cm （つや消し）	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、 プラスチック	1999	1	口径 18.0、高 11.0
TEKKI	佐藤商事、日本洋食器	鉄		1	口径 22.0、縦 25.0、横 33.0、高 10.0
TEKKI　オイルパン 22cm （蓋なし）	佐藤商事、日本洋食器	鉄		1	横 33.0、口径 22.0、高 3.4
TEKKI　グリルパン 22cm （蓋なし）	佐藤商事、日本洋食器	鉄		1	横 33.0、口径 22.0、高 3.4
TEKKI　浅型鍋 22cm （鉄鋳物蓋＆ハンドル付）	佐藤商事、日本洋食器	鉄		1	本体（口径 22.0、横 33.0、高 9.8）、 蓋（口径 23.5）、 ハンドル（全長 18.7）
ミルクパンふた（つや消し）	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、 フェルノール樹脂 （つまみ）		1	直径 15.0、横 17.5
ミルクパン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、 フェルノール樹脂	2000	1	全長 28.9、口径 15.5、横 17.8、 高 7.5、底裏口径 11.0
パンチングストレーナー 柄付	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス		1	口径 19.0、全長 30.0、高 6.5
ミルクパンふた	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス		1	口径 15.7、横 18.0
レードル M	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1997	1	全長 29.5、横 8.3
レードル L	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1997	1	全長 30.0、横 9.5
ステンレスパスタパン （コランダー付き）	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1999	1	口径 24.0、ざる高 18.0、鍋高 15.3 両者 25.5
ステンレスボールφ 13cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1960	1	口径 13.0、高 5.0
ステンレスボールφ 16cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1960	1	口径 15.7、高 6.2
ステンレスボールφ 19cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1960	1	口径 18.5、高 7.7
ステンレスボールφ 23cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1960	1	口径 23.2、高 11.8
ステンレスボールφ 27cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1960	1	口径 27.3、高 12.0
ステンレスボールφ 23cm ／ ステンレスボールφ 27cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1960	1	
ステンレスボールφ 13cm ／ ステンレスボールφ 16cm ／ ステンレスボールφ 19cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1960	1	
ステンレストング（穴あき）	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス		1	全長 21.5
ステンレストング（穴なし）	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス		1	全長 21.7
スキンマー S	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス		1	全長 21.3、横 7.0
レードル S	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス		1	全長 22.0、横 7.0

名　　称	制作者	材　　質	制作年	個数	寸　　法（cm）
ターナー S	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス		1	全長 22.2、横 7.1
耐熱ガラスボールふた 19cm	佐藤商事、日本洋食器	ガラス		1	直径 19.3、底裏直径 16.3
耐熱ガラスボール 19cm	佐藤商事、日本洋食器	ガラス		1	口径 19.3、高 8.3
耐熱ガラスボール 23cm	佐藤商事、日本洋食器	ガラス		1	口径 24.0、高 10.0
コフの缶切り	小坂刃物	金属・プラスチック	1970	1	全長 18.2
コフの缶切り（マグネット付）	小坂刃物	金属・プラスチック・マグネット	1970	1	全長 18.2
ステンレス　ヤカン（ミラー）	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス鋼（クローム 18%・ニッケル 8%）、フェルノール樹脂	1994	1	口径 13.5、高 21.0、底厚さ 0.07
耐熱ガラスボール 16cm	佐藤商事、日本洋食器	ガラス		1	口径 16.0、高 7.0
泡立て	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス・プラスチック	2000	1	全長 29.5
KITCHE KNIFE　10cm	佐藤商事、日本洋食器	13 クロームステンレス・特殊ステンレス鋼		1	全長 10.0
KITCHE KNIFE　14cm	佐藤商事、日本洋食器	13 クロームステンレス・特殊ステンレス鋼		1	全長 14.0
KITCHE KNIFE　18.0cm	佐藤商事、日本洋食器	13 クロームステンレス・特殊ステンレス鋼		1	全長 18.0
BREAD KNIFE　21cm	佐藤商事、日本洋食器	13 クロームステンレス・特殊ステンレス鋼		1	全長 21.0
ステンレス・アルミ 3 層鋼片手鍋 23cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス鋼（クローム 18%・ニッケル 8%）、アルミ、フェルノール樹脂	1999	1	口径 22.0、全長 42.5、高 12.0
ステンレス・アルミ 3 層鋼両手鍋浅型 22cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス鋼（クローム 18%・ニッケル 8%）、アルミ、フェルノール樹脂		1	口径 22.0、高 16.2
PUNCHINGSTRAINER ステンレス BOWL φ 16cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1999	1	口径 16.2、高 6.0
PUNCHINGSTRAINER ステンレス BOWL φ 19cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1999	1	口径 19.5、高 7.0
PUNCHINGSTRAINER ステンレス BOWL φ 23cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1999	1	口径 23.7、高 8.0
PUNCHINGSTRAINER ステンレス BOWL φ 27cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1999	1	口径 27.7、高 10.0
PUNCHINGSTRAINER テンレス BOWL φ 16cm ／ PUNCHINGSTRAINER ステンレス BOWL φ 19cm ／ PUNCHINGSTRAINER ステンレス BOWL φ 23cm ／	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1999	1	

名　　称	制作者	材　　質	制作年	個数	寸　　法（cm）
PUNCHINGSTRAINER ステンレスBOWL φ 23cm／PUNCHINGSTRAINER ステンレス BOWL φ 27cm					
ステンレス　片手鍋 18cm（ミラー）	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、プラスチック	1999	1	口径 18.0　全長 35.0（取手含む）、高 13.0（蓋含む）
鉄フライパン 18cm	佐藤商事、日本洋食器	鉄、プラスチック	1999	1	口径 18.0、全長 34.0（取手含む）、高 7.0（蓋含む）
鉄フライパン 22cm	佐藤商事、日本洋食器	鉄、プラスチック	1999	1	口径 22.0、全長 40.0（取手含む）、高 10.5（蓋含む）
鉄フライパン 25cm	佐藤商事、日本洋食器	鉄、プラスチック	1999	1	口径 25.0、全長 45.5（取手含む）、高 10.5（蓋含む）
ステンレス　片手鍋 22cm（つや消し）	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、プラスチック	1999	1	口径 22.0、全長 42.5（取手含む）、高 11.0（蓋含む）
ステンレス　片手鍋 22cm（ミラー）	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、プラスチック	1999	1	口径 22.0、全長 42.5（取手含む）、高 11.0（蓋含む）

• 食　器

名　　称	制　作　者	材　質	制作年	個数	寸　　法（cm）
ティーポット（黒）	加正製陶（現佐藤商事）	陶器	1982	1	縦 12.5、横 21.5、高 12.8、底面縦 10.7、底面横 10.7
ピッチャー（黒）	加正製陶（現佐藤商事）	陶器	1982	1	注ぎ口まで 11.2、口径一辺 6.7、底裏一辺 8.3、高 22.0
ピッチャー（白）	加正製陶（現佐藤商事）	陶器	1982	1	口径 7.8、底裏口径 10.0、高 15.8
プレート（L）（黒）	加正製陶（現佐藤商事）	陶器	1982	1	縦 23.0、横 23.0、底裏縦 15.5、底裏横 15.5
プレート（L）（白）	加正製陶（現佐藤商事）	陶器	1982	1	縦 23.0、横 23.0、底裏縦 15.5、底裏横 15.5
プレート（M）（黒）	加正製陶（現佐藤商事）	陶器	1982	1	縦 18.5、横 18.5、底裏縦 12.3、底裏横 12.3
プレート（M）（白）	加正製陶（現佐藤商事）	陶器	1982	1	縦 18.5、横 18.5、底裏縦 12.3、底裏横 12.3
プレート（S）（黒）	加正製陶（現佐藤商事）	陶器	1982	1	縦 14.2、横 14.2、底裏縦 9.8、底裏横 9.8
プレート（S）（白）	加正製陶（現佐藤商事）	陶器	1982	1	縦 14.2、横 14.2、底裏縦 9.7、底裏横 9.7
プレート（黒）	加正製陶（現佐藤商事）	陶器	1982	1	縦 23.3、横 28.2、高 3.0
プレート（白）	加正製陶（現佐藤商事）	磁器	1982	1	縦 23.3、横 28.2、高 3.0
ボール（小）（黒）	加正製陶（現佐藤商事）	磁器	1982	1	縦横 13.0、底裏縦横 6.0、高 4.5
ボール（小）（白）	加正製陶（現佐藤商事）	磁器	1982	1	縦横 13.0、底裏縦横 6.0、高 4.5
ボール（大）（黒）	加正製陶（現佐藤商事）	磁器	1982	1	縦 17.0、横 17.0、底裏縦 9.7、底裏横 9.7、高 4.5
ボール（大）（白）	加正製陶（現佐藤商事）	磁器	1982	1	縦 17.0、横 17.0、底裏縦 9.7、底裏横 9.7、高 4.5
ミルクピッチャー（白）	加正製陶（現佐藤商事）	磁器	1982	1	注ぎ口まで 8.0、縦横 6.2、高 7.0
（カップ）	高浜焼窯元寿芳窯	磁器		1	口径 8.0、底裏口径 4.0、高 6.7
（醤油差）	高浜焼窯元寿芳窯	磁器		1	横 9.7、高 10.0、底裏口径 6.5
（湯呑）	高浜焼窯元寿芳窯	磁器		1	口径 8.0、底裏口径 4.0、高 6.7
（湯呑）	高浜焼窯元寿芳窯	磁器		1	口径 8.0、底裏口径 4.0、高 6.7
ステンレスプレート φ 18cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1997	1	横 18.2、口径 15.0

名　　称	制　作　者	材　質	制作年	個数	寸　　法（cm）
ステンレスプレートφ18cm／ステンレスプレートφ25cm／ステンレスプレートφ32cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1997	1	
ステンレスプレートφ25cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1997	1	横 25.0、口径 20.5
ステンレスプレートφ32cm	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1997	1	横 31.6、口径 25.8
タンブラー　底上グラス 6oz	佐藤商事、日本洋食器	ガラス	1979	1	口径 7.3、底辺直径 5.2、高 11.2
タンブラー　底上グラス 6oz	佐藤商事、日本洋食器	ガラス	1979	1	口径 7.3、底辺直径 5.2、高 11.2
ビールジョッキ（黒）	佐藤商事、日本洋食器	陶器	1958	1	口径 7.8、底裏口径 10.0、高 15.8
ビールジョッキ（黒）	佐藤商事、日本洋食器	陶器		1	口径 7.8、底裏口径 10.0、高 15.8
ビールジョッキ（白）	佐藤商事、日本洋食器	陶器	1958	1	口径 7.8、底裏口径 10.0、高 15.8
ビールジョッキ（白）	佐藤商事、日本洋食器	陶器		1	口径 7.8、底裏口径 10.0、高 15.8
ワイングラス 8oz	佐藤商事、日本洋食器	ガラス	1979	1	口径 8.0、高 12.5、底裏口径 5.3
角突きピッチャー	佐藤商事、日本洋食器	ガラス		1	口径 6.4、底裏口径 11.0、高 22.2
底上げグラス 8oz	佐藤商事、日本洋食器	ガラス	1979	1	口径 8.0、底裏口径 5.3、高 12.5
角付きタンブラー	山谷硝子	ガラス		1	口径 7.5、底裏口径 7.2、高 8.7
白磁土瓶	上田陶石	磁器	1999	1	横 13.8、高 19.5、口径 9.3、底裏口径 13.0

• カトラリー

名　　称	制 作 者	材　質	制作年	個数	寸　　法（cm）
（デザートスプーン？）	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス		1	全長 17.2
アイスクリームスプーン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 15.0
カニフォーク	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 18.5
グレビーレードル	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 16.5
ケーキサーバー	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス		1	全長 23.5、横 6.0
ケーキフォーク	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 15.0
コーヒースプーン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 11.8
コーヒースプーン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、カバ	1974	1	全長 12.5
サーバースプーン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス		1	全長 24.7、横 6.5
サーバーフォーク	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス		1	全長 24.5、横 5.0
サービススプーン／サービスフォーク	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	スプーン全長 22.0、フォーク全長 22.5
サービングスプーン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス		1	全長 25.5、横 7.6
サラダフォーク	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、カバ	1974	1	全長 17.0
シュガースプーン（レードル）	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 12.5
シュガーレードル	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、カバ	1974	1	全長 12.7
スープスプーン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、カバ	1974	1	全長 18.0
スキンマー	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1997	1	全長 30.0、横 9.7
ターナー	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1997	1	全長 30.0、横 10.3
ティースプーン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 14.0
テーブルスプーン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 18.2
テーブルナイフ	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 22.8
テーブルフォーク	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 18.3
ティースプーン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、カバ	1974	1	全長 14.0
ティースプーン・ヒメフォーク 12 ピースセット	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	12	スプーン全長 14.0、フォーク全長 14.0
ディナースプーン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 19.0
ディナーナイフ	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 22.0

名　　称	制 作 者	材　質	制作年	個数	寸　　法（cm）
ディナーフォーク	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 19.2
デザートスプーン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、カバ	1974	1	全長 18.0
デザートスプーン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 17.0
デザートナイフ	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、カバ	1974	1	全長 21.6
デザートナイフ	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 21.0
デザートフォーク	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、カバ	1974	1	全長 19.0
デザートフォーク	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 17.0
デザートフォーク	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、カバ	1974	1	全長 19.0
バターナイフ	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、カバ	1974	1	全長 16.8
バターナイフ	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 17.0
バタービーター	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1997	1	全長 30cm、横 8.0
パスタフォーク	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 19.7
ヒメフォーク	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス、カバ	1974	1	全長 12.7
ヒメフォーク	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 14.0
フィッシュナイフ	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 20.6
フィッシュフォーク	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 17.0
フォークレードル	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1997	1	全長 29.5、横 5.3
フルーツ 14 ピースセット	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	14	デザートスプーン全長 14.0、デザートフォーク全長 15.0、デザートナイフ全長 17.0、シュガースプーン全長 12.5
フルーツナイフ	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 17.0
マドラスプーン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 22.0
ラージティースプーン	佐藤商事、日本洋食器	ステンレス	1974	1	全長 16.0

• 染織・玩具

名　　称	制 作 者	材質	制作年	個数	寸　　法（cm）
ファブリック　バーコード　茶	柳ショップ	綿	1999	1	縦 113.0、横 213.5
ファブリック　バーコード　緑	柳ショップ	綿	1999	1	縦 112.0、横 213.5
人形（女）	鳴子高亀（現柳ショップ）	木、紐	1964	1	高 18.5、裾直径 9.0
人形（男）	鳴子高亀（現柳ショップ）	木、紐	1964	1	高 18.5、裾直径 9.0
人形（鳥）	鳴子高亀（現柳ショップ）	木、紐	1968	1	高 7.0、全長 8.5

2　購　入

年　度	作　者	作　品　名	製造・発行所
2017年4月	柳　宗理	《クリーマー》	松村硬質陶器
同　上		Sori Yanagi Designer opera dal 1950 al 1980	Padiglione d'Arte Contemporanea, 1980
同　上		Japan Forum. Traditionelles Japanisches Handwerksgut und Produktformen vo Sori Tanagi.	Eine Ausstellung der Staatlichen Werkkunstschule Kassel,（1961）
2017年10月		『柳宗理デザイン展　1950-1983』	イタリア文化会館
2017年12月	柳　宗理	《水差し》	佐藤商事

新デザインミュージアムに期待すること

1　常設展示

市販されている柳製品を、ダイニングの食卓、リビング、キッチンなどを再現する展示方法で、直にモノを見て、触れて体験することができる展示方法は、柳の歴史や理念を伝える上で大きな効果があったと言えよう。約 200 点の柳製品が一同にいつでも見れる状態を保持している価値は大きく、新デザインミュージアムには引き継いでほしい。できれば、気に入った製品をその場で購入できるようにミュージアムショップとして発展すれば、さらに普及活動としての効果が期待出来る。

2　ミニ企画展示

常設展示室の一角の硝子ケース内で、柳の寄託作品を使って、毎回テーマを設けて行った企画展示で、柳工業デザイン研究会が担当した。貴重な寄託作品を年 3 回入れ替えて展示した。小スペースながら、毎回クオリティの高い展示で、さすが柳宗理を知り尽くした柳工業デザイン研究会のデザイン力はすばらしく、見応えがあった。地域に住むリピーターにとって、テーマを設けた寄託作品の公開は柳の理念を伝える普及活動として市民への啓発となった。

できれば新デザインミュージアムの中にもこのようなスペースを設ければ、リピーターにとっての価値は大きく、学芸員の教育の場としても有効に使える。

3　企画展示

本研究所のメイン業務であり、企画展示を行うにあたり、寄託作品の公開展示が実現し、調査研究は深まり、関連した公開講座が行われる。それらの資料はデザイン教育に役立ち、パンフレット等の冊子はアーカイブとして積み上げて行くことができる。新デザインミュージアムにとっても大変重要な業務となる。企画展示を、できれば年 2 回ほど開催できるよう、充分な予算と専属の学芸員の確保が必要。

企画展示の開催は、柳宗理の学術研究の蓄積や、印刷物やインターネットによる社会発信、成果公表による普及啓発活動等、学生へのデザイン教育全てに繋がる。

4　公開講座

柳先生と直接関係した講師による公開講座は、柳宗理の理念をそれぞれの講師が感じた言葉にして一般公開されるもので、価値は大きい。また企画展示に関連した公開講座は、デザインプロセスや量産にいたるまでの製造現場での苦労などを知ることで柳作品の研究の深化となる。これまで 28 回開催され、実績としては充分と言えよう。新デザインミュージアムでも開講することが望ましい。残念なのは、これらの公開講座をアーカイブできていないこと。録画して文字起こしでテキスト化する、映像で残すなど、今後は必要だと感じる。

＊コロナ禍でオンライン開催した講演会はアーカイブとして残している。

5　ギャラリー貸し出し

展示資料室 2 とレクチャールームを貸し出し、年平均5回ほどデザイン科の学生の課題発表を行った。また、デザイナーの個展も開催した。尾張町の立地が街中で旧美大より格段に良かったので、市民や観光客に一般公開できて実績としては充分達成できた。現在は美大も新キャンパスに移転し、素敵な展示スペースが増えたことから使用頻度は下がっている。美大のギャラリーと違った目的で使用できれば、新デザインミュージアムでも可能性はあると思う。

6　調査研究

企画展示始め、日常的な柳作品の調査研究は、専属の所員が計画立てて行い深化させていくべきだと思う。また、研究結果をアーカイブすることは重要で、できれば冊子等にすることや、インターネットでの公開を定期的に行うことが望ましい。

7　団体見学アテンド

10 年間で延べ 125 団体、2784 名に柳の作品や思想などをガイダンスアテンドできたことは、普及活動として大きな実績で、新デザインミュージアムでも積極的に受け入れていくべき事業である。

8　ウインドウディスプレイ

閉所日や閉所後の夜の時間帯にも柳宗理を常時公開できるスペースとして有効活用された。効果は大きいと思うので、新デザインミュージアムには、このようなスペースは無いが、何らかの形で閉館時にアピールできるアイディアが必要だと思う。

9　施設への誘客促進について

本研究所は、メインの施設が全て 1 階にあり、常設展示は硝子張りでオープンな明るいイメージなのと、周辺の観光地を結ぶ動線に立地していることから、観覧者が入りやすく、観光客も多く来場した。

新デザインミュージアムは観光地から少し外れた動線であることや、建物が 3 階建てで、展示空間は 2 階 3 階となることから、入りやすいアイディアが必要だと考えられる。たとえば武蔵が辻交差点付近からの誘導サインや、サテライトウインドウディスプレイなどは有効である。加えて IT 関係を使い、観光地としてグーグルマップの上位に検索されることや、市内の美術館と連携した広報活動などが考えられる。

10　運営組織について

本研究所は、金沢美術工芸大学美術工芸研究所の内部組織として位置し、当初は柳宗理記念デザイン研究所所長と事務局職員（学芸員）が所員となり組織された。所員はいずれも金沢美術工芸大学の雇用であったため、兼任や非常勤職員等で入替りが多く、引き継ぎが十分ではなかったと感じる。また、この組織とは別に、研究所の事業を管理運営する管理・運営委員会が柳工業デザイン研究会と金沢美術工芸大学の数名のメンバーで組織された。

新デザインミュージアムの組織は、展示の企画や関係する組織との連絡調整等を行う必要があることから、オープンに向けて職員の確保が急務である。特に館長や担当学芸員については早急に採用することが望ましい。

後　記

柳宗理記念デザイン研究所は 2014 年 3 月に設立され、設立から 10 年が経過しました。約 200 点の市販されている柳製品を一同に見ることができる常設の展示資料室 1 は、インテリアとして再現された展示方法で、柳製品に直に触れて見られる唯一の展示空間で好評を博しました。開所当初から積極的に寄託作品を使った企画展を開催し、貴重な柳作品を公開し、関連の公開講座も多く開催され啓蒙活動を行いました。この間、コロナ禍に見舞われ活動中止を余儀なくされる期間もあり、また、建物自体の劣化も激しく、展示品の紫外線による劣化等 10 年という期間は様々な経験を重ねました。これらの経験が新しく開設される新デザインミュージアムに繋がり、調査研究を深化させ、成果を蓄積・公表していくことで、地域文化のさらなる発展に貢献していくことを願います。

2025 年 3 月

柳宗理記念デザイン研究所

柳宗理記念デザイン研究所

活動実績　2014-2024

発　　行	2025年3月
編　　集	柳宗理記念デザイン研究所 〒920-0902　金沢市尾張町2-12-1
編集・AD	浅野　隆
編集協力	株式会社ドゥーイング
印　　刷	株式会社グラフィック

Yanagi Sori Design Memorial Annual Report 2014-2024
https://www.kanazawa-bidai.ac.jp/yanagi/

柳宗理記念デザイン研究所

〒920-0902 石川県金沢市尾張町2丁目12-1
電話番号　076-201-8003
FAX番号　076-201-8004